



都市を考え、都市を創る情報誌 「エフ・ユー プラス」

ISSN 1881-6541

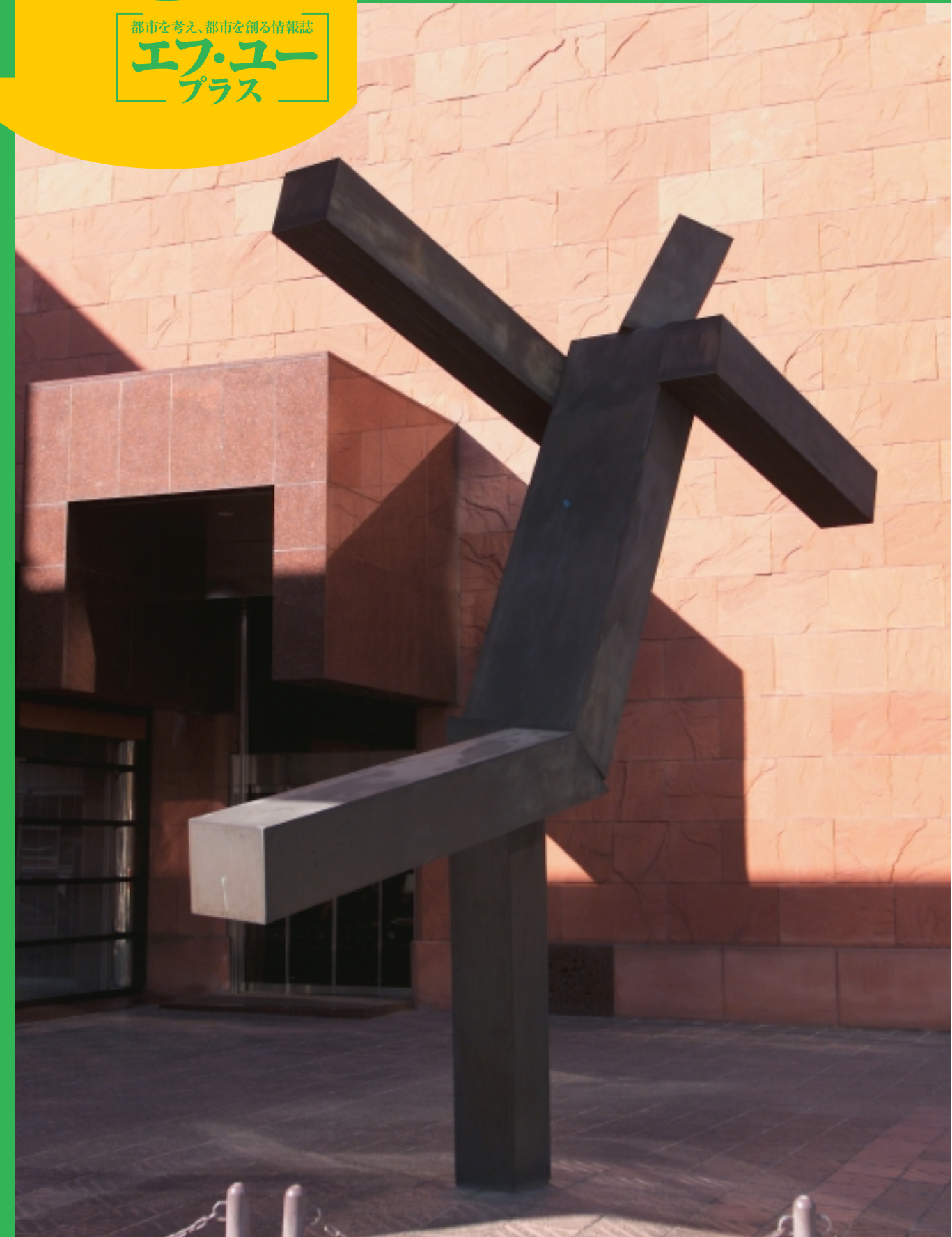


Fukuoka Asian  
Urban  
Research  
Center

NO. 2

都市を考え、都市を創る情報誌  
エフ・ユー  
プラス

特集  
まち歩き  
—まちの魅力再発見—



Fukuoka Asian  
Urban  
Research  
Center

NO. 2

都市を考え、都市を創る情報誌  
エフ・ユー  
プラス

都市を考え、都市を創る情報誌  
「エフ・ユー プラス」



都市情報誌  
エフ・ユー プラス 第2号  
2007年3月30日発行

# f u #

Fukuoka Asian Urban Research Center

NO. 2

都市を考え、都市を創る情報誌

## エフ・ユー プラス

■表紙写真:  
「WALK」 ジョエル・シャピロ  
(福岡市博多区博多駅前、西日本シティ銀行本店) 1989年

■裏表紙写真:  
「無題」 ジョエル・シャピロ  
(韓国・釜山広域市海雲台) 1988年

## C O N T E N T S

### 特集 まち歩き

#### 01 まちの魅力再発見

02 グラビア  
福岡まちなか探訪

#### 04 長崎さるく博'06

日本ではじめてのまち歩き博覧会  
(財)福岡アジア都市研究所 瀧山 直子

#### 06 博多情緒めぐりキャンペーン(2006)

伝統と文化のまち「博多」情緒を訪ね歩く「小さな旅」

#### 08 高齢住民自身による歩く地域点検

老いても住み続けられる所とは?  
(財)福岡アジア都市研究所 特別研究員  
山口県立大学大学院教授 小川 全夫

#### 10 自分のまちを歩く

～まち歩きを通じた福岡再発見～  
日本政策投資銀行九州支店 企画調査課長 武田 浩

#### 12 東京都杉並区『知る区ロード事業』

始まりは「歩いて杉並を知るルートづくり」と「めぐり道構想」  
防災からまち歩きへ  
(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 川井 久史

#### 14 まち歩き(ウォーキング)で健康づくり

城南区保健福祉センター地域保健福祉課

#### 16 まとめ 楽しく歩ける“みち”と“まち”

(財)福岡アジア都市研究所 理事長 樗木 武

#### 17 URC研究員レポート 「交流」から「協力」へ 福岡～釜山の都市事情

～さらなる絆を深めるための課題解決～  
(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 野口 誠  
研究主査 松熊 功 研究主査 小牧 重己

#### 20 福岡アジア都市研究所セミナー 持続可能な都市構造を考える ～福岡・九州と都市計画の未来～

#### 24 データで見る福岡市 Vol.2

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 中村 正則

#### 26 アジア文化 変化を遂げた中国映画100年の歴史(後編)

～「福博」と中国映画～  
熊本県立大学非常勤講師 西谷 郁

#### 28 アジア太平洋都市サミット 会員都市紹介 APCS都市三大インパクト ホーチミン市の巻

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 山下 永子

#### バンコク市の巻

(財)福岡アジア都市研究所 交流推進係長  
アジア太平洋都市サミット事務局 山本 公平

#### 32 中国街角スケッチ 「民族村」と「農民工」

(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 唐 寅

#### 33 インフォメーション/次号予告

## 特集 まち歩き —まちの魅力再発見—

昨年、長崎市で全国ではじめてのまち歩き博覧会「長崎さるく博」が開催され、累計1,000万人を越える人が参加し、好評を博した。歩いてまちを知ることは、人々にとって新鮮なことだったようである。本当にまちを歩いてみると新たな発見があり楽しい。そこで今回は特集としてまち歩きを取りあげ3つの観点から考えてみた。

第1は「観光」。「長崎さるく博」、「博多情緒めぐり2006」を取りあげ、観光からまち歩きについて考えてみた。まちの歴史・文化遺産、伝統的な芸能、文化活動などに着目し、集客のためのまちづくりといったインフラの整備から、まち歩きのプログラムづくり、ガイド・サポーターの育成といったソフト面までさまざまな取り組みが行われている。

第2は「自分のまちを知る」という点。まち歩きは知っているようで知らない自分のまちの魅力を再発見する機会である。約20年も続いている東京都杉並区「知る区ロード事業」と高齢者が自分のまちを診断するあらたな取り組みなどを紹介する。

第3は「健康づくり」という点。城南区が行っている歩く健康づくりの取り組みを紹介する。

一緒にまちを歩いてまちの新たな魅力を発見しよう。

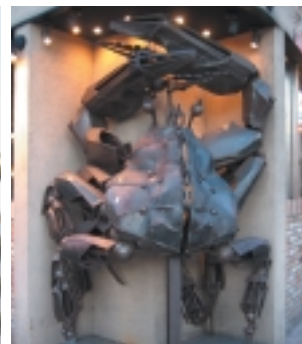
# 福岡まちなか探訪

まちの中を歩いてみると、「まち」を知り、色々な魅力を発見することができます。片隅に息づく動物のオブジェ、一角を彩る色々な建物、その他不思議なもの。普段何気なく歩いている路上も、注意しながら歩くと様々な発見がありますよ。

## 福岡まちなか動物園



■旧市立動物園の門(東区馬出)



■カニ(博多区中洲)



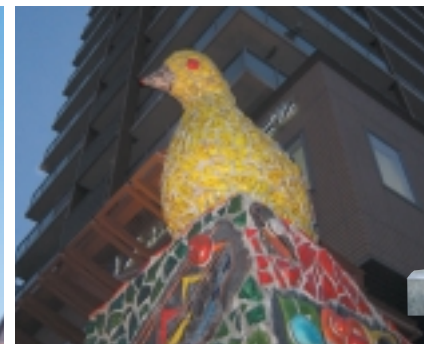
■カモメがかたどられた街灯(博多区築港本町)



■公園にあるイルカのオブジェ(早良区百道浜)



■「シーソー」(一部分)(早良区百道浜)



■「Peace」(一部分) 高鶴元(中央区薬院)



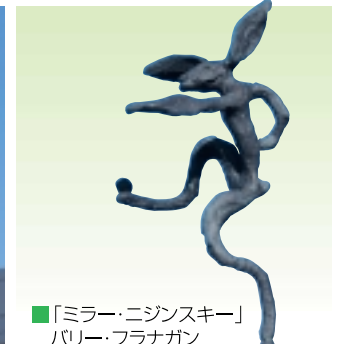
■「BURUDON」流政之(早良区百道浜)



■「ブードル」申明銀(早良区百道浜)



■「大きな愛の鳥」ニキド・サンファル(中央区地行浜)



■「ミラー・ニジンスキー」パリー・フラナガン(早良区百道浜)



■「ダビンチ」灯屋十兵衛(中央区舞鶴)



■「おかえり」松永真(中央区大名)



■「カバの親子」柴田善二(中央区天神)



■郵便イメージキャラクターポスト(博多区博多駅前)



■「無題」キース・ヘリング(中央区舞鶴)

## まちを彩る建造物



■福岡市文学館(中央区天神)



■旧福岡県公会堂貴賓館(中央区西中洲)



■鹿島本館(博多区冷泉町)



■アクロス福岡(中央区天神)



■ネクサスワールド(東区香椎浜)



■ネクサス百道M棟(早良区百道浜)



■ネクサス百道S棟(早良区百道浜)

## まちなか不思議発見!?



■市役所近くに立ち並ぶ、ギリシャ神殿を思わせる石柱群(中央区天神)



■福岡タワー前に鎮座するインドの神様たち(早良区百道浜)



■気がかずに通り過ぎてしまいそうな、ひっそりとしたお地藏様の入り口(博多区上呉服町)



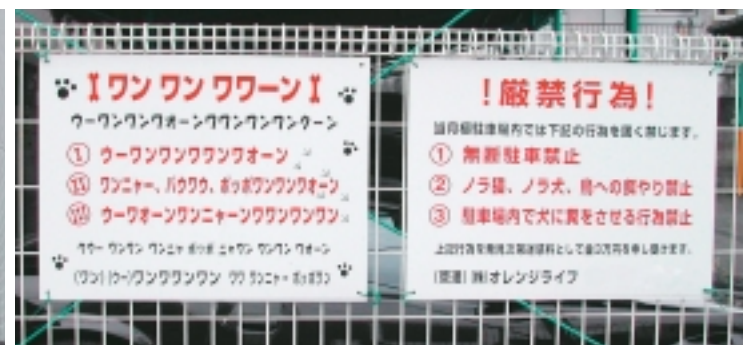
■苔が一面に貼られた、呼吸をしている壁(博多区博多駅前)



■fU+1号を持って探しに行こう。九州鉄道発祥の地(博多区博多駅前)



■巨大な青いタマゴ。何が生まれるのだろう? 「Home and away」スタルシャン・シエツィ(博多区下川端町)



■この際犬がカタカナを読めるかどうかは置いておこう。(中央区春吉)

# 長崎さるく博'06

## 日本ではじめてのまち歩き博覧会

(財)福岡アジア都市研究所 瀧山 直子

### 長崎さるく博'06が 開催されるまで

歴史と文化に彩られた観光地・長崎。長崎市の観光客数は長崎旅博覧会が開催された1990(平成2)年の628万人をピークとし、徐々に減り続けこの5年間は500万人程度まで落ち込んでいた。長崎には他所にはないユニークで魅力的な資源が数多く存在するが、十分活かされているとは言い難かった。そこで、資源の楽しみ方を創造、発信し、長崎での新しい時間の過ごし方として定着させる契機としてさるく博が企画された。2004(平成16)年2月には「長崎市観光2006アクションプラン」(3か年の行動計画)の策定、市長への提言、10月～11月にはプレイベントとして4コースの通さるく、4テーマの学さるく、3テーマの長崎体験等の開催があり、市民を中心に2,869名の参加を得た。翌2005(平成17)年7月～10月のプレイベントを福岡圏にも告知し、15コースの通さるく、

14テーマの学さるく、5テーマの長崎体験等に5,192名が参加した。同年9月には長崎さるく博第3次実施計画が策定され、以降公式ガイドブックの作成、観光キャンペーンの実施、テレビCMや新聞広告などが行われ、2006(平成18)年4月1日～10月29日に「長崎さるく博'06」が開催される運びとなったのである。

### 長崎さるく博'06

長崎さるく博'06には、「遊さるく」「通さるく」「学さるく」3つのさるく(まち歩き)メニューがある。「遊さるく」はマップどおりに、あちこち立ち止りながらゆっくり歩いて1コース約1時間半の全42コース。「通さるく」はガイドと約2時間のまち歩きを楽しむ全31コース。「学さるく」は専門家による講座や体験がセットになって、さらに深く探求できる全74テーマ。さらに長崎の伝統文化を体験できる「長崎体験」9コースや各種イベントなど盛りだくさんであった。期間中の累計参加

ぶらぶら歩くという長崎弁「さるく」を名前にもつ「長崎さるく博'06」。歴史や外国文化と縁の深い長崎をゆっくり歩いてその魅力をもっと知ろうというこのイベントは従来のパビリオン方式の博覧会とは一線を画している。まち歩きは観光客を呼び込む商品となりうるのか。

者は、1,023.3万人と目標の960万人を上回っている。予約制の「通さるく」「学さるく」「長崎体験」は申込の際に個人データを入力するしくみとなっているため参加者の分析を行うことができた。52,478人の参加があり、男女比では男性36.1%に対し女性63.9%と圧倒的に女性が多く、年代では50代の26.3%、60代の21.9%が多く、都道府県別では長崎県69.6%、福岡県10.1%、熊本県3.1%の順で、首都圏からは東京都の2.4%が4位となっている。「通さるく」の人気コースは「長崎は今日も異国だった～南山手洋館、港が見える坂～」(8,575人)、「文人墨客も思案した?～丸山巡遊～」(5,221人)、「ハイカラさんが往来しよらす～東山手洋館群とオランダ坂～」(3,962人)であった。

「長崎さるく博'06」の推進体制は、長崎市2006推進プロジェクト本部(本部長(市長)、副本部長(助役、収入役)、委員(全局長))、事務局(観光2006推進室内)(15名)、長崎さるく博'06



100日前イベントでのガイドさん  
(写真提供:長崎さるく博'06推進委員会事務局)



地元の人たちとコース作り(現地調査)  
(写真提供:長崎さるく博'06推進委員会事務局)

推進委員会(110名)に加え、協力団体等、コーディネートプロデューサー(1名)、市民プロデューサー(95名)、さらにさるくガイド(延べ4,723名)、さるくサポーター(延べ4,262名)から成り立っており、期間中は実に約3万人もの長崎市民がイベントを支えたのである。

「2006イベント」は推進委員会のもとにすべてを市民プロデューサーの手で企画し、実施された。市民プロデューサーは①基礎イベント(「長崎さるく」とタイトルがつけられた「まち歩きイベント」)②会場イベント(グラバー園・出島などの既存施設を会場としたもの)③記念イベント(オープニングナイトや2006長崎帆船まつりなど)を担当する95名である。特筆すべきは、「遊さるく」「通さるく」用のマップである。イラスト中心の手書き風のもの、写真を分かりやすく配置したものとそれぞれに特徴があり、手作り感あふれる楽しいものである。これらは、市民プロデューサーを中心に市民が長崎を歩いてまちの財産を掘り起こし、作成した。



左端がガイド、右端がサポーター



高島秋帆(わが国最初の西洋砲術家)旧宅跡

### 「長崎さるく博'06」体験記

筆者は2006(平成18)年10月11日(水)～12日(木)にかけて長崎さるく博'06に参加した。

参加したのは「通さるく」の「超VIP出島蘭館医「施福多」の奇跡」と「高島秋帆旧宅跡から大徳寺へ～江戸、明治の風情が残る奥丸山～」、「遊さるく」の「長崎歴史文化博物館めぐり」である。「通さるく」の各コースの定員は15名、私が参加したコースは両コースとも同時に3組開催と大盛況であった。3グループも同時並行だと、同じ観光スポットを見せるのは難しいのではと思ったが適宜調整しながらスムーズに進んでいった。ところどころマップに載っていないお地蔵さまや原爆の跡が残っている塀など歴史の説明や古い民家などにまつわる話をするガイドさん。交通安全や参加者の歩行の様子に気を配るサポーターさん。会期終わりの方ということもあってか、大変手慣れていて安心して楽しむことができた。さらに「さるくほっとステーション」としてコース沿いの寺社や公民館が休憩場所となっており市民の方々のあたたかいおもてなしを受けた。長崎は坂が多いので少し歩くとすぐ小高い所に出てまちを見下ろすことができるので見晴らしがよく気持ち良かった。また、幅広い参加者の方々(1歳7か月児や、60代・70代の方など)と和やかに歩けたのも楽しい。

「遊さるく」では、長崎歴史文化博物館(2005(平成17)年11月開館)を訪ねた。長崎ならではの鎖国時代の外国交流史を知ることができ、往時の姿を復

元した長崎奉行所立山役所もあるユニークな博物館である。企画展も「くんち372年展～大諏訪の神宝と祭礼～」や「ローマを夢みた美少年 天正遣欧使節と天草四郎」など特色のあるものが多い。博物館に行く道すがら気がついたのはまちの所々にちよつとした目印が多数あることである。街道名やゆかりの著名人の足跡を知らせるものであり、興味を引かれた。長崎さるく博の最大の魅力は、市民の皆さんの熱意と歴史や物語を掘り起こして見せた工夫ではないだろうか。

### さるく博の今後と 他都市での可能性

長崎市はさるく博で培ったシステムや人材を活用し、今年4月より「長崎さるく」としてリニューアルスタートし、年に一度、さるくのイベント月間を設けて「まち歩きのまち長崎」のイメージ定着を図っていきたいとの意向である。他都市でもまち歩きの楽しさとして、歴史や文化を掘り起こし地元の市民及び観光客へ示すことは可能である。そのためには長崎のように熱心な市民中心の運営システムの確立と行政の役割分担が必要となるだろう。福岡市でも、昨年秋、期間限定で「博多情緒めぐり」のまち歩きがスタートしたが、今後は、各都市が、市民や企業の関わりを中心に、個々のまち歩きの魅力を高めながらも、広域的に連携し、戦略的に情報発信力を高めていくことが重要である。

●長崎さるく博'06ホームページ  
<http://www.sarukuhaku.com/>

# 博多情緒めぐり キャンペーン(2006)

伝統と文化のまち『博多』情緒を訪ね歩く『小さな旅』

神社仏閣が建ち並び、歴史や伝統・文化を感じさせる博多部。

博多部は「博多らしさ」とビジネス街が調和した風格のあるまちづくりを目指している。2006(平成18)年秋には「博多情緒めぐりキャンペーン」が行われ、好評を博した。まちづくりに街歩きがどのように関わっているのか検証してみる。

## 「博多情緒めぐりキャンペーン」実施の背景

博多部は長い歴史の中で、文化発祥の歴史にゆかりのある神社仏閣をはじめ、様々な歴史・伝統・文化を持つ魅力的なところである。

福岡市の「新・基本計画(2003(平成15)年3月策定)」や「新・福岡都心構想(2006(平成18)年6月提言)」を踏まえ、都心部の魅力づくりと集客産業の振興のため、博多部の経済・文化の活性化に取り組んでいる。

この中で「博多情緒めぐりキャンペーン」は、地域の振興に向け、通年で博多部を訪れる来街者の増加を目指し、街なかを回遊する賑わいづくりの仕掛けの1つとして開催されたキャンペーンである。

また、来街者のおもてなしをサポートする体制づくりとして、街歩きボランティア育成や情報発信の強化(WEB等)を

行っている。

この取組みを契機として、街の魅力を高め、集客を牽引する演出としての景観向上の取組みの推進や商い振興の誘導につなげていく予定である。

## 博多情緒めぐりキャンペーン(2006)

「博多情緒めぐりキャンペーン」は2006(平成18)年10月20日から11月15日まで「博多灯明ウォッチング」など例年実施されている催し時期にあわせ、マップを見ながらの自由散策やボランティアガイドの説明付き散策(「ガイドと街歩き」)や雅楽の演奏、重要文化財の特別拝観など、寺社等を会場とした催しが行われた。

ガイドと街歩きは「発祥の地・寺社めぐりコース」「太閤町割・商いコース」「博多小話コース」「真昼の中洲文芸講座

コース」の4コースを設定し、ボランティアガイドが約2時間のモデル散策コースを説明しながら、小グループ(定員10人)で街の隠れた歴史を探索する企画である。

小グループごとにガイド役1名とサポート役1名のほか、受付など、多くのボランティアが来街者のおもてなし体制づくりに協力している。

「ガイドと街歩き」は10月22日から11月12日の土・日・祝日を中心に全4コースとも10時出発と14時出発の1日2回で実施し、延べ1,157人が参加した。アンケート



櫛田神社本殿前でのガイド風景



大博通りの古地図でのガイド風景



各コースの受付風景

ートによると、参加者は女性が全体の65%と多く、年齢層としては60代が最も多く31%、次いで50代が27%となっており、50代以上で全体の73%を占めている。居住地は博多区内が15%、その他福岡市内が49%で、参加者全体の36%が福岡市外からであった。市外から来た人に博多に来た目的を訊ねたところ(複数回答)、このキャンペーンに参加するためとしたものが最も多く(77%)、旅行目的が12%となっている。「観光の宝庫である」、「もっと宣伝して欲しい」「また参加したい」といった意見が見られた。また、4コースのなかで一番参加者が多かったのは「発祥の地・寺社めぐりコース」であった。

緒めぐりキャンペーンが開催される予定である。昨年は、各種催しやモデル散策コースを紹介するガイドチラシを博多部を中心に全19か所で配布したが、今年は旅客業界や旅行業界などに協力を要請し、より広い範囲のエリアに広報を行えたらとの願いがある。

将来的には、通年でガイドによる街歩きが行われ、博多部がいつも来街者で溢れ賑わっている姿が目標で、価値のある地域資源のPRとおもてなしサポート体制づくりの契機として、「博多情緒めぐりキャンペーン」は考えられる。

もっと多くの方が歴史・伝統・文化などの隠れた資源にあふれる博多部を訪ねて、その良さを知っていただき、博多部の振興を支えるサポート隊になってもらいたいと願っている。

## 今後の展望と課題

本年、2007(平成19)年秋も博多情

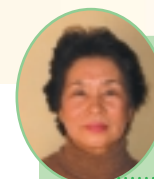


(注)川上音二郎像は現在博多小学校へ移転しています。



博多情緒めぐり  
実行委員会会長  
上田 啓蔵さん

- ・博多情緒めぐりは博多部の活性化の一環です。春のどんたく、夏の山笠の時期は博多の町が活気づきますが、以前秋には特に行事がなかったため、灯明ウォッチングなど色々なイベントが始まりました。
- ・平成18年には「ガイドと街歩き」がはじまり、最初は博多に関する知識が少ないボランティアの方も多かったのですが、皆さんいろんな勉強されて頑張られました。「ガイドと街歩き」の案内中に、「博多にわか」や「歌や絵披露」など個性的なおもてなしをされる人もおられ参加者に喜ばれました。
- ・博多部は歴史と伝統を感じられる観光資源が豊富で、歩くことが出来る範囲に収まっているのが強みだと思います。今後は博多の料理や博多座観劇などのオプションを加えた企画や観光産業とのタイアップなどより多くの方に興味を持って参加して頂く工夫が必要になると思います。またガイドする人材増員など受入体制の強化も必要になってくると思います。



福岡市観光案内  
ボランティア  
池田 節子さん

- ・生まれ育ちが博多部で地元が大変愛着があり、御供所町近郊のお寺についての勉強会に参加していました。多くの方に博多部の良さを知って頂けたらと思いボランティアに応募しました。
- ・あがり性なのでガイドをするのが心配でしたが、研修や本番の場数を踏んで頑張りました。参加者の皆さんの色々な質問に自分なりの回答があることが地元出身の私の強みです。
- ・これからも博多部のことをもっと勉強したいと思います。ガイドは出来ても自分の中で腑に落ちず表面的になってしまうことがありますから。今は御供所町にあるお寺の昔の場所を古地図で勉強しています。
- ・ぜひ多くの方に参加して頂いて、博多部の魅力を知って欲しいですね。

○博多めぐりホームページ  
<http://www.hakata-meguri.jp/>

# 高齢住民自身による 歩く地域点検

## 老いても住み続けられる所とは？

人口高齢化が進むと、住んでいる地域が、高齢者にとって住みよい地域かどうか課題になる。高齢者自身の手で、高齢者の住んでいるまちを歩いて自分の目で点検作業を行ない、まちの変化に気づき、できるところから高齢者自身の力によって改善する手法が開発されている。



(財)福岡アジア都市研究所 特別研究員  
山口県立大学大学院教授 小川 全夫

### 知らず知らずの変化

人は急激な変化については、衝撃を受けてすぐに対応するが、緩慢な変化については気づかず対応も遅れがちである。災害などは前者である。だが人口高齢化というのは後者である。人は一刻一刻年取っているのであるが、そのことに気づき対応する人は少ない。そして多くの人は、しばらくたって気づいて、周囲が大きく変化していた実態に驚くのである。

高度経済成長期、福岡市に移り住んできた若者も、働き、結婚し、家族を持ち、住宅を手に入れ、子育てに邁進してきたが、ふと気づくと子供は去り、年を重ねた配偶者と二人になっている実態に気づき、周囲を見渡してみると、近隣も同じような年恰好の年配者ばかりにな

っているという事実には愕然とするのである。

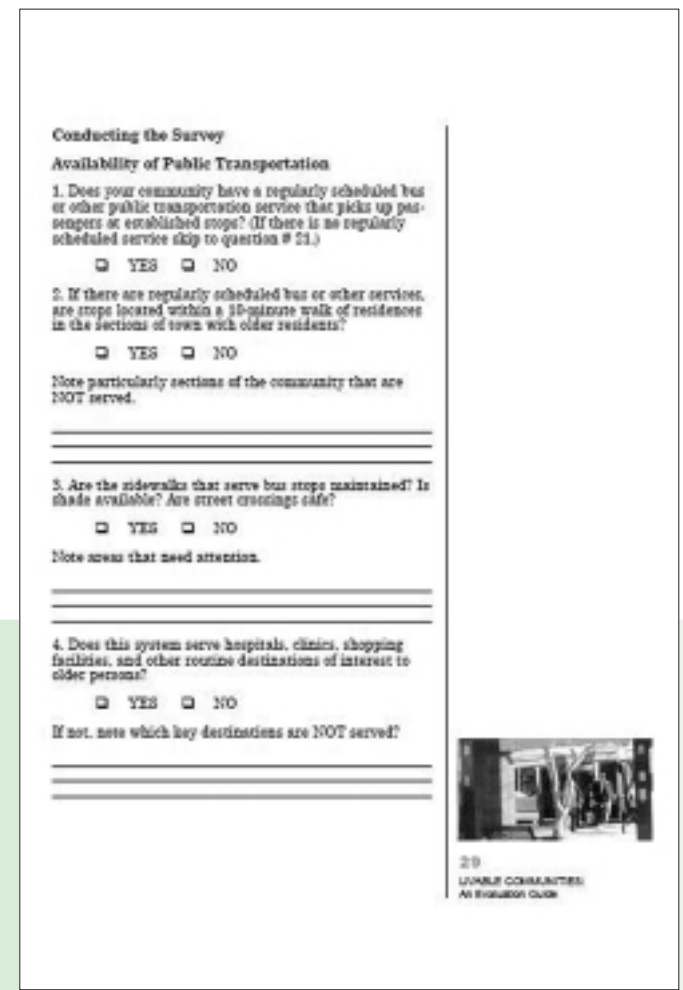
行政も、急激な変化には緊急措置という伝家の宝刀を抜いて対応することが容易であるが、緩慢な変化に対しては、なかなか措置を講じるタイミングを図りかねる傾向がある。福岡市のように、毎年大学や専門学校に入学するために、若い人口がとっかえひっかえ転入してくる都市では、人口高齢化がほかの地域よりもいっそう緩和されているので、一見若い都市であるという印象が邪魔して、着実に進行している人口高齢化に取り組むタイミングがますます難しくなる。しかし、着実に人口高齢化は進行しており、それが都市内部に高齢人口集中地区を生み出している。アメリカではそういう地域のことを、自然発生的退職者コミュニティ(NORC: Naturally

Occurring Retirement Communities)と呼んでいる。意図的に高齢者を集めた高齢者福祉施設が立地したための高齢人口集中地区とは違うからである。

このような緩慢な変化に対しては、気づいた人間自身ができるところから活動を始めなければ、外部からの支援を待っていても事態は改善されない。

### 気づくためのまち歩き

家の中に閉じこもっている、周囲の変化はなかなかわからない。自動車の乗ってうろうろしても、見えるのは道路の周囲のみである。もういちど、自分の住んでいる地域を歩いてみよう。自分たちを取り巻く生活環境がどのようなになっているかを自分たちの目で確か



AARP「住めるコミュニティ」チェックリストの例(公共交通機関の利便性)

めてみよう。アメリカのそして世界最大の高齢者民間非営利組織であるAARPは、そんな高齢者が変化に気づくためのまち歩きの手ほどきを「住めるコミュニティ」と題して提供している。高齢者が住みなれた町に住み続けることができるかどうかは、自らの目で確かめてみようというのである。

地域の生活環境は、気づかぬうちに不便になっていたり、危険になっていたり、不衛生になっていたり、人間関係がささくれ立ったりしていることがよくある。移り住んできたときには、高級住宅街で家族に子供を抱えている人が多かったのに、30年たってみると、老夫婦2人だけの家族になっており、隣人たちも一人暮らしや夫婦のみ世帯になっている。ある日、泥棒が入ったり、失火が生じたり、救急車が駆けつけたりして、突如高齢人口集中地区になっている事実には驚かされる住民が多い。

向けられていたようである。しかし、今は高齢者をめぐる生活環境の点検に重点を置かなければならない時代になっている。

地元学、路上観察会やワークショップ方式といわれるような手法で、高齢の住民が住んでいる地域を歩き回って、気づいたことを地図上に書き入れていけば、気づいたことを住民で共有することができる。時間割や行事暦だとかカレンダーを使って、気づいたことを時間表の中に書き入れて、地域課題を発見し、共有することもできる。そしてAARPが開発した点検リストや生活環境点検表などによって、地域の生活環境の整備水準を評価することもできる。ともかく住民自身が自分たちの周りの生活環境がどのような状態になっているかを気づくことが第一歩なのである。

### 生活支援サービスの自主的プログラム開発を

確かに日本は世界でも最先端の介護サービス提供システムを誇っている。しかしそれはあくまでも身体的・精神的な要介護高齢者をターゲットにしたプログラムを提供しているに過ぎない。高齢者の8割以上はまだ要介護といえるような状態からは免れている。しかしこうした元気な高齢者が、不安や危険から免れているとはいえない。地域生活環境の実態がわかれば、自然とそのような課題も浮き彫りになってくる。課題解決にむけて、ただ行政の取り組みに期待するだけではおそらく今の時代なかなか前進しないだろう。前進を図るためには、まず気づいた人々が「この指たかれ」方式で、課題解決にむけての生活支援サービスを考案し、実行することが必要である。2000(平成12)年の社会福祉法で規定された市町村地域福祉計画は、このような取り組みができる根拠を与えたものである。市町村はこのような住民活動と協働して、独自予算で生活支援サービスのための地域密着多機能型施設の整備も行えるようになっている。要はこうした動きを座して待っているだけでは始まらないということである。

福岡市民がこのような生活支援サービスプログラムの開発活動を始めることができるかどうか。まずは、自治会レベル、小学校区レベルで、高齢住民の手による地域生活環境点検活動を呼びかけ、そこで発見された課題解決のための生活支援サービスプログラムの公募を行うような官民協働事業の構築が必要なのではないだろうか。

**おがわ たけお**  
1943年台北市生まれ。九州大学大学院文学研究科修士課程修了。久留米大学論文博士(文学)号取得。宮崎大学、山口大学教授、九州大学大学院教授を経て2006年9月より山口県立大学大学院教授。同年4月より(財)福岡アジア都市研究所特別研究員。専門は地域社会学、中山間地域政策。

# 自分のまちを歩く

## ～まち歩きを通じた福岡再発見～

日本政策投資銀行九州支店 企画調査課長 武田 浩

### 10番目の「自分のまち」

「まち歩き」が趣味の銀行調査マン。運良く転勤にも恵まれた。名古屋市の出身で、豊島区、世田谷区、吹田市(大阪府)、中野区、杉並区、岡山市、フランクフルト(ドイツ)、武蔵野市(東京都)と引越を続け、今は福岡市内に住んでいる。福岡は記念すべき10番目の「自分のまち」だ。福岡に住んで4年。東京、名古屋、大阪にも3年以上住んだ。福岡より小さな都市(岡山、フランクフルト)にも暮らした。趣味の「まち歩き」をしながら、国内外の500都市以上を歩いてきた。4年間の経験しかない福岡だが、自分の住んでいる周辺や繁華街だけでなく、地下鉄、西鉄、JRの各駅周辺や主な住宅地も歩いた。福岡市内を歩いて横断(生の松原→西新→天神→博多→福岡空港)したり縦断(ももち→西新→油山)したりもしている。そんな私が福岡のまちを歩きながら考えたことを紹介したい。

### 歩いて気づく福岡のあれこれ

散歩やウォーキング、まち歩きを楽しむ人は、全国的にも増えているだろう。福岡で人気の場所は大濠公園だろうか。「自宅から大濠公園まで散歩する」という設定で福岡のまちについて考えてみたい。まずは散歩に出かける前の準備から。福岡のまちの特徴について確認しよう。国勢調査(総務省統計局)のデータを見てみよう【図表1】。福岡市の人口(2005年)は140万人。山陽新幹線が博多駅に乗り入れた1975年は100万人だった。過去30年間に40万人、40%も人口が

●図表1：過去30年間で人口、世帯数とも急増

|                  | 単位  | 東京23区 | 名古屋市 | 大阪市 | 福岡市 |
|------------------|-----|-------|------|-----|-----|
| 人口(1975年)        | 万人  | 864   | 208  | 278 | 100 |
| 人口(2005年)        | 万人  | 848   | 222  | 263 | 140 |
| 人口増減率(2005/1975) | %   | -2    | 7    | -5  | 40  |
| 世帯総数(1975年)      | 万世帯 | 307   | 63   | 91  | 33  |
| 世帯総数(2005年)      | 万世帯 | 414   | 95   | 124 | 65  |
| 世帯増減率(2005/1975) | %   | 35    | 50   | 37  | 94  |

資料:総務省統計局「国勢調査」

「賑わうまちはどこも歩いている人が多い。」国内外500都市以上を歩いて気づいたポイントだ。通勤族の私にとって、福岡は10番目の「自分のまち」。住んで4年。福岡の都心から郊外まで色々歩いてきた。「自分のまちを歩く」というテーマで福岡のまちについて考えたい。

増加した。この間の東京23区、名古屋市、大阪市の人口は微増か微減。福岡市が人口面でいかに急成長したかが理解できよう。世帯数の増加を見ると驚異的で、94%増とほぼ倍増している。人口面での急成長が福岡市の大きな特徴だ。もう一つ大切な特徴がある。地図を見れば一目瞭然だが、玄界灘に面し、太宰府方面を除けば背振や篠栗の山々に囲まれている。コンパクトな港湾都市といえよう。「急成長都市」、「コンパクトな港湾都市」という二つの特徴を頭に入れて散歩に出かけよう。

外に出ると新鮮な空気が気持ちいい。散歩の大きな楽しみだ。特に、冬の空気

●図表2：冬の寒さや乾燥も幾分穏やか

|              | 単位 | 東京23区 | 名古屋市 | 大阪市 | 福岡市 |
|--------------|----|-------|------|-----|-----|
| 1月の降水量(平年値)  | mm | 49    | 43   | 44  | 72  |
| 1月の最低気温(平年値) | ℃  | 2.1   | 0.5  | 2.5 | 3.2 |

資料:気象庁ホームページ「気象統計情報」

●図表3：マンション居住者が多い福岡

|                    | 単位 | 東京23区 | 名古屋市 | 大阪市 | 福岡市 |
|--------------------|----|-------|------|-----|-----|
| 共同住宅に住む世帯比率(2005年) | %  | 70    | 62   | 67  | 73  |

資料:総務省統計局「国勢調査」

は澄んでいる。乾燥した空気がこの季節の悩みだが、福岡は東京、名古屋、大阪に比べ乾燥が穏やかなように思う。私だけかもしれないが、福岡に暮らしてから冬場の静電気に悩む機会が減った。静電気だけでなく、風邪を引く回数も減ったように思う。太平洋岸にある東京のように雲一つない冬の晴天は望みにくいが、私は福岡の気候が気に入っている。乾燥だけでなく、寒さ(最低気温)の面でも幾分穏やかだ【図表2】。

車の少ない住宅地を歩いてみよう。住宅地を歩いていると、福岡はマンションの博覧会場だと思う【写真1】。この30年間で世帯数がほぼ倍増したのにあわせ住宅も急増した。マンションの普及時期も重なり、共同住宅に住む世帯の比率は73%で、東京、名古屋、大阪よりも高い【図表3】。マンションが多いだけでなく、古いものと新しいもの、品質を重視したものや価格を重視したもの、単身者向けとファミリー向け、様々なマンショ

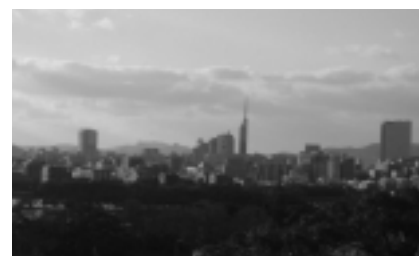


写真1：福岡城跡から福岡市西部(福岡タワー方面)の住宅地を望む。マンションが多い。



写真2：天神の渡辺通り周辺。九州中から天神界限に人が集まる。

ンが混在しているのも福岡の特徴だろう。買い物客で賑わう繁華街を歩くのも楽しい。天神界限【写真2】の賑わいはいうまでもないが、東京や大阪の繁華街とは少し違うように思う。天神を歩く人の行動範囲が意外と狭い。渡辺通り、天神地下街、岩田屋、大名周辺はとても賑わうが、少し外れると人があまり集まらない。テナントの魅力次第という面もあるが、東京の尺度で全てが測れないのも福岡の面白さだろう。

住宅地の商店街も歩くと楽しい。特に、西新は、平日・休日、時間帯を問わず、とにかく歩いている人が多い【写真3】。子供や学生から高齢者まで年齢を問わず、様々な人々で賑わう。特定のカラーに限定されないところが西新の魅力だろう。ただ、市内の商店街の多くでは人通りが寂しくなっているのも事実。ロードサイドの店舗に車で出かける人が増えているのだろう。

話題を今回の散歩の目的地である大濠公園に移そう【写真4】。広々としていて水辺の空間が気持ちいい。ジョギングやウォーキングしやすいようによく整備されている。残念なのは、猛烈な台風の影響を2年続けて受けたこと。外周部分の樹木が少し寂しくなっている。公園内では犬を連れて散歩している人をよく見かける。小型犬が多いと思う。マンション住いの多い福岡の特徴だろうかと思ってしまう。同じところを歩いても、季節の変化とともに小さな発見が色々あるものだ。都市としての集積が進む一方で、自然、歴史、文化の魅力も併せ持つ福岡。歩くと楽しいまちだと思う。



写真3：リヤカー部隊で有名な西新商店街。とにかく歩いている人が多い。



写真4：ジョギングやウォーキングを楽しむ市民で賑わう大濠公園。

### 他のまちも歩こう

最後に他のまちを歩くこともお奨めしたい。「まち歩き」に関する著作が多い評論家・川本三郎氏は、「私の場合、「散歩」と「町歩き」を区別している。「散歩」は自分の家の近くを歩くこと。「町歩き」は日常の生活圏とは違う町を歩く。ちょっとした旅のようで楽しい。」(出所:『東京の空の下、今日も町歩き』)といている。川本氏のいう「町(まち)歩き」もぜひ楽しんでほしい。

福岡と同じ城下町では、萩、熊本、白杵、飢肥あたりが歩くのにお奨め。全国に賑わうまちは色々あるが、私は、東京の日本橋や吉祥寺、大阪のなんばに福岡のヒントを求めることが多い。古いものと新しいものがまちの中に混在していて、そこを色々な人々がたくさん歩いているからだ。他のまちを歩くのは「ちょっとした旅」のようで楽しい。「自分のまち・福岡」の再発見にもつながる。私が500都市以上を歩いて気づいたことは、「賑わうまちはどこも歩いている人が多い」ということ。福岡でも同じことがいえる。



たけだ ひろし

1966年名古屋市生まれ。慶応義塾大学法学部卒業。日本開発銀行(現日本政策投資銀行)に入行後、ドイツ政府系金融機関に派遣。帰国後(財)日本経済研究所を経て現職。「福岡県中心市街地再生検討委員会・ワーキンググループ」委員(2005-2006、福岡県)、「新・福岡都市構想検討準備会」メンバー(2003-2004、福岡市)、「ながさき観光意見番」(2007、長崎県)などを歴任。



2006(平成18)年知る区ロードの日(杉並むかし紙芝居)

杉並区では防災のまちづくりと、人々が余暇の充実と、ふるさと意識を作り上げるといった視点から「杉並の様々な人に出会い、様々な場所をめくり、様々な町を知る」というコンセプトで『知る区ロード事業』を始めた。今年で20周年を迎える。

# 東 京都杉並区

## 『知る区ロード事業』

始まりは「歩いて杉並を知るルートづくり」と「めぐり道構想」  
防災からまち歩きへ

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 川井 久史

### 「知る区ロード」とは何か?

当初は災害時の安全な避難のため、そして杉並の様々な人に出会い、場所をめくり、まちを知ることから設定された散策路で、全長約36km杉並区内のほぼ全域をめぐるルートとなっている。“東の輪”(16.9km)、“西の輪”(19.4km)の二つの輪から成り立っていて、その

重なった部分を“真ん中の輪”と呼ぶ。このルートをたどって歩けば、「まちの資源」と呼んでいる公園や川、文化財、公共施設などに出会える。便利で地元の人たちが日常使っている普通の道。

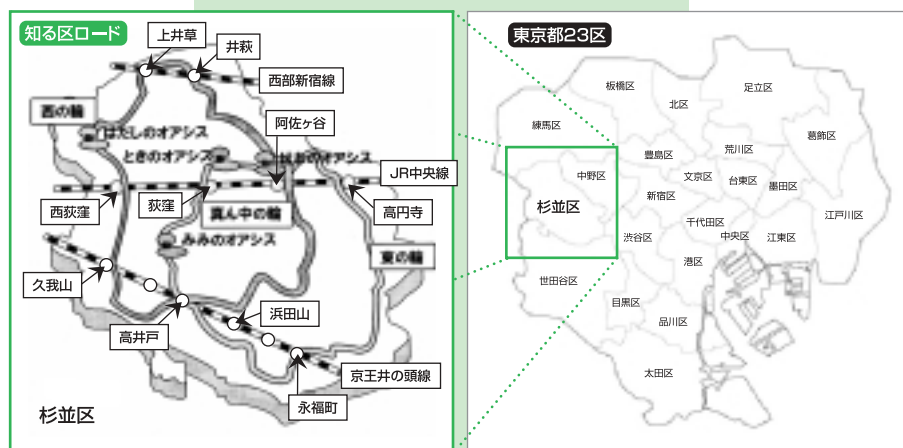
### 知る区ロード探検隊

目印や案内板、休憩所の設置などルートの

整備をメインにハード整備を行う予定だったが、取り敢えず地図を使ってこの「知る区ロード」を区民に歩いてもらおうということで、1988(昭和63)年から「探検隊」プログラムが始まった。探検隊は知る区ロードのルートを示した「探検地図」と、まちの探検の心得、探検課題を載せた「探検手帳」をもとに、各自が自分の面白いと思った事をテーマにまちを探検し、「探検報告」を行うもので、楽しく、おもいっきり道草をしながら、自分の住む町を知り、まちづくりに対する一層の関心と、街への愛着を深めることを目的としている。これまでに延べ7万5,000人が参加している。

### 知る区ロードの日

毎年8月初旬の日曜日に行われるイベントを「知る区ロードの日」と呼んでいる。普段は何時でも好きなときに好きな場所を探検するのが、



知る区ロードの探検隊だが、1年に1日だけ、探検隊員が一同に集まる日。毎年テーマ(2006(平成18)年は『時空探検すぎまると行く歴史散歩』)を決め、散策ルートも変えている。ルート上のチェックポイントでスタンプ集め、1992(平成4)年からはカード交換ゲームも始まった。最初10数枚の同じカードをそれぞれが持ち、出会った他の探検隊員とカードを交換しながらすべて違うカードにするというゲーム。このゲームによって見知らぬ探検隊員と話をするきっかけをつくり、相互のコミュニケーションを図ることができる。このカードゲームを楽しみにして毎年参加する人も多い。



すぎまるマガジン、探検手帳、探検地図

### すぎまるショップ

知る区ロードの日に路上カードゲームで集めたカードやスタンプラリーのスタンプの数に応じて「シルク」がもらえる。100シルク、50シルク、10シルクがあった。このシルクと卓上クリーナー、メモクリップ、Tシャツなどのすぎまるグッズと交換できる場所を「すぎまるショップ」といい探検隊員だけのお店だった。すぎまるグッズは毎年その品を変えている。(ショップは2005(平成17)年で終了、グッズは継続中)

### 道標(どうひょう)

知る区ロードの目印として、ルートに埋め込んだもの。これはマンホールの蓋をヒントに作られ直径18cm。他に雨水樋のふたにも同じ図柄が入っている。



道標

### オアシス

ルート上には人間の五感をテーマにした4箇所のオアシス(休憩所)があり、色々な遊びも体験できる。



ときのオアシス



はなのオアシス

### すぎまるサポーター

2000(平成12)年から「知る区ロードの日」や探検隊の報告を元に年1回編集される「すぎまるマガジン」の内容等の企画・運営はボランティアの協力を得て行っている。最近では主導的役割を果たし、20周年である2008(平成20)年を期に行政からすぎまるサポーターへ主体を移すことになる。

### 「まち歩き体験記」

そもそも今回の調査の発端は、当研究所事務局長が今からさかのぼること16年前の1991(平成3)年9月に杉並区役所へ「知る区ロード」についてのヒアリングに行っており、現在に至ってもまだ続いているのは何か理由があるはずだから確かめていこうということであった。事務局長から借りた16年前の「探検地図」「すぎまるマガジン」を持ち、中央線阿佐ヶ谷駅から「真ん中の輪」を歩きだした。すぎまるの道標が歩くルートを容易に示してくれる。1990(平成2)年の「すぎまるマガジン」に掲載されている各地点を確認しながらルートを歩く事にする。川沿いの遊歩道、そして杉並児童交通公園へ。車があまり通らないルート設定がされているよ

うで、平日の日中ということもあるのか、人通りも少なくとても歩きやすかった。

だんだんと息切れし始め、京王線浜田山駅へ着く頃には廻りの景色を見る余裕が無くなっていく。“みみのオアシス”でしばし休憩。荻窪駅まで何とかどどり着いたところでギブアップ。結局真ん中の輪の4分の3を歩く、この間約3時間半。当時あったとされる宮前2丁目の農地、高井戸西2丁目の2,000本の杉林は、現在ではさすがに見られなくなっていたが、それ以外のポイントは現在もしっかりと存在していた。確かに、見知らぬ人たちとカード交換ゲームをしながらワイワイ歩くのもいいなと感じた。そうすればもっと歩けたかもしれない。

毎年趣向を変え、参加者を飽きさせない色々な仕掛けを考えてきた、杉並区まちづくり推進課や、すぎまるサポーターの皆さんには、敬意を表すばかりである。

そういえば自宅の近所もこんなにじっくり歩いたことがないと気づいた。通勤に使うルートを脇目もふらず歩くのではなく、災害時の安全な避難と自分たちの住んでいるまちを知る、その両面で地域をじっくり歩いてみなければと改めて思うのだった。

### ご存じですか?「避難所(場所)」

福岡市では風水害などで事前避難が必要な場合や地震等により住宅で生活できなくなった場合に開設されます。(市域で震度5弱以上の地震が発生した場合、市内のすべての小学校、公民館が避難所として開設されます。)日頃からまち歩きで最寄りの避難所(場所)の所在地や、道順を確認し備えておきましょう。尚、居住地区区外の避難所(場所)も利用できます。避難勧告等が発令された場合、区役所職員や消防隊員が避難誘導しますので、その指示に従って行動してください。



避難場所の標識例

○すぎなみ「知る区ロード」  
<http://www.suginami-siruku.org/index.html>



# まち歩き(ウォーキング)で健康づくり

まち歩きはウォーキングでもある。ここ福岡市は、健康増進教室の先駆的都市で、福岡大学提唱の「にこにこペース」のウォーキングを、各区保健福祉センター、健康づくりセンターで推進している。

城南区では自然に恵まれた環境を活かし、住民と共働で歩きたくなるまちづくりを通じて健康づくりに取り組んできたので報告する。

城南区保健福祉センター地域保健福祉課

## 城南区の特徴

城南区は、人口12万8千人、面積は16.02km<sup>2</sup>で、福岡市のほぼ中央部に位置する。都心に近い住宅地区で、福岡大学、中村学園大学の2つの大学があり、文教地区でもある。また区内には、油山を水源とする樋井川や、34か所のため池などがあり、豊かな自然に恵まれた地域である。

## ウォーキング普及への取り組み

城南区では、健康日本21福岡市計画での城南区版として、各校区の健康日本21行動目標を検討したところ「健康ふくおか10か条」第2条の「身近なところで、楽しみながら運動をとりいれましょう」をほとんどの校区が取り上げた。身近な運動としてウォーキングに取り組み、ウォーキングレッスンやウォーキング大会を行い、校区毎に歩こう会

を結成している。

## 歩きたくなるまちづくり事業

城南区の基本計画第1次実施計画の中に、「歩きたくなるまちづくり事業」を位置づけ、①歩きたくなるための環境の整備②歩くためのツールの整備の充実③歩きたくなる工夫(城南区歳時記の編集)④健康づくりの推進(ウォーキング大会の開催)などをあげ、関係課の協力のもとに実施している。ここでは①②について具体的に紹介する。

- 1) 歩きたくなるための環境の整備
  - ・ため池周辺の通路整備(大牟田池、西の堤池)やウォーキングルートの表示
- 2) 歩くためのツール整備の充実
  - ・ウォーキングマップ(城歩マップ・冊子)は、第一に、区民の健康づくりとしてのウォーキング普及のため、第2に転勤族の方に城南区のよさを知ってもらうことを目的に作成した。
  - ・城歩マップのできるまで:福岡市の場

合、地域保健活動は、小学校校区を基盤に行っており、最初の段階では、校区の衛生連合会役員や健康づくり実行委員会に依頼して、日ごろよくウォーキングをしている方に校区ごと集まってもらい、各校区情報収集会を行った。住民がよく利用しているコース、見所スポット、コースの勾配、所要時間などの難易度に関する情報、車両通行量、道路の安全に関する情報などを収集した。第2段階として各校区の情報をもとに市民検討委員会を立ち上げ、ワークショップを行った。校区の情報の共有化と、区としてのお勧めのウォーキングコースを検討し、現地調査の上、見どころやコースの目安、トイレ・道路情報などの情報収集を行い、9つのコースを選定し、2005(平成17)年3月に2万部の城歩マップを作成した。

・城歩マップ(冊子)の構成 ①さあはじめようウォーキング ②魅力いっぱい全ウォーキングコース ③ウォー



出典:「彩発見!歩きたくなる城南区~見どころいっぱいウォーキングマップ~」



出典:「彩発見!歩きたくなる城南区~見どころいっぱいウォーキングマップ~」

キングコースの紹介(9コース) ④城南区見どころ探訪 ⑤ウォーキングのここに注意など。

・以降城歩マップを活用したウォーキング大会の開催などを行っている。

## 南区城南区ウォーキング交流事業

2006(平成18)年度は南区と城南区合同で公募した両区住民でワーク

## ●正しい姿勢で楽しく歩こう

意識しすぎないで結構です  
リラックスして歩きましょう

力を抜いて振りだし、  
体重を乗せていく

かかとから着地  
特につま先を意識して  
上げること



首や肩の力は抜いて

出典:「福岡市糖尿病予防ガイド」

## ●年代別のニコニコペースの脈拍数の目安

ニコニコペースの目標脈拍数

| 年齢  | 運動中1分間の脈拍数 |
|-----|------------|
| 20代 | 130拍 (30拍) |
| 30代 | 125拍 (29拍) |
| 40代 | 120拍 (28拍) |
| 50代 | 115拍 (26拍) |
| 60代 | 110拍 (25拍) |
| 70代 | 105拍 (23拍) |

(注)降圧剤などのお薬を服用している方や日頃の脈拍が速いまたは遅い方などでは、この目安にあてはまらないことがあります。このような方は、運動中のきつさが「ややきつい」を目安に実施しましょう。

\*カッコ内は15秒間の脈拍数

出典:「福岡市糖尿病予防ガイド」

ショップを行い、樋井川とため池を結んだウォーキングコースを4コース作り、新たにマップを作成した。2007(平成19)年3月21日に2区合同のウォーキング大会を実施する予定である。ワークショップで出された情報はウォーキングを経験している市民の方々の知恵の集約であり、マップづくりからウォーキング大会へのプロセスそれ自体がまちづくりに繋がっている。またコース周辺のある景観は、花壇の整備や川の清掃など市民の方々の力によるものが多く、まちづくりは市民に支えられていることを実感することができた。

## 効果的な歩き方をしよう

1. 歩きやすい靴、動きやすく目立つ服装で、必ず水やお茶を持って。いざという時のために携帯電話も持参。
2. 自分の体調や体力と相談し、無理をしない。にこにこペースで速歩で歩く。
3. 歩く前、歩いた後に必ずストレッチを
4. 正しい姿勢で楽しく歩こう。

## ウォーキングの効果

ウォーキングの最大の特徴は、特別な道具がいらず、いつでも、どこでも自分のペースでできることである。

1. 心肺機能が上がり、全身持久力を高める。
2. 効率よく脂肪を燃やし、体脂肪を減らすのに有効である。
3. 高血圧・糖尿病などの生活習慣病の予防や治療に効果がある。
4. ストレスの解消など精神面により影響がある。
5. その他、骨粗鬆症の予防、便秘症の改善などにも効果がある。

## まとめ

ウォーキングは、にこにこペースで、ウォーキングマップを片手に、グループや個人で自然を楽しみながら、ごみを拾ったり、小学生に声かけしながら、あるいは寄り道をしたり、楽しみ方をいろいろ挑戦できる健康に効果のある「まち歩き」ではないだろうか。

まとめ

# 楽しく歩ける “みち”と“まち”

## 人が歩くから“まち”がある

生まれた赤ん坊が、その人生ではじめて歩きだすときを“歩初(あるきぞめ)”といい、その子の行く末の幸多いことを願って祝う慣わしがある。以来、人々は人生を通して歩き続けるが、一人の人が生涯をかけて歩く距離の総延長は、定かではないが地球2、3周をゆうに超えるものと推測される。そして、その大半が“まち”の中での歩きである。あるいは、多くの人々が歩くからこそまちが存在し、まちの活動があり、まちが賑わう。

生活で、通勤通学で、仕事で、ショッピングやレクリエーションなどで。人々は多様な目的を持ってまちを歩き回る。祭やスポーツなどの舞台に、小説や歌を創る素材探しにとまちを歩きに歩く。

なぜこうも人はまちを歩くのだろうか。むろん歩くことが人の特性であるからである。しかし、それ以上に歩くことが、人の身体のリズム、思考のリズム、精神のリズムに適合しているからと考える。

紹介した長崎のさるく博、博多の情緒めぐり、杉並区の知る区ロードなどは、人がまちを歩くからこそまちの発見や再発見があることを生かした取り組みである。あるいは、自己啓発や健康のための散策といった歩きもある。赤ん坊の歩初から年を取って老いるまで、まちを歩

くことが人の宿命であり、人生であるならば、楽しいまち歩きを人生の支柱に据え工夫することが本来といえよう。

## 楽しく歩ける“みち”でまちづくりを

人が歩くまちにおいて、歩く空間はいうまでもなく“みち”である。つまり、“みち”は道、路であり、道は人(首)が行ったり来たりすること(通)に由来し、路は足が各々の方向にむくことにもとる。

あるいは、道、路以外にも、通、途、径がまた“みち”である。大きな表通りから、路地裏の小路、小径まで。あるいは、単に通行する、移動する道だけでなく、途中をさまよい人とふれ合う寄り道、迷い道もある。まちには多様な“みち”が存在し、まちの賑わいと歩く楽しさを演出し、人生を豊にしている。

つまり、まちの“みち”は歩くことが基本中の基本である。その中で多様な利用があるからこそ多くの漢字で表現される“みち”が生まれたといえよう。このことと前述のことを踏まえれば、結局はまちづくりの礎は「楽しく歩けるまちの“みち”づくり」である。

まちづくりの上で往々に見られるような車のための道路だけがまちの骨格、都市軸をなすものではない。歩く空間の

(財)福岡アジア都市研究所 理事長 樗木 武

“みち”をまちの骨格とすること、歩行のネットワークと人のたまり空間を適切に配置し整備すること、歩く道を舞台にした賑わいを演出することなどを中心に据えて、より楽しく歩ける“みち”づくりこそがまちづくりの柱である。



# 2 「交流」から「協力」へ 福岡～釜山の 都市事情

—さらなる絆を深めるための課題解決—



左から松熊、野口、琴、小牧

(財)福岡アジア都市研究所  
主任研究員 野口 誠  
研究主査 松熊 功  
研究主査 小牧 重己

福岡市と釜山広域市は、行政交流都市としての過去18年の交流に基づき今年2月2日姉妹都市の締結を行いました。釜山広域市は、博多港から玄界灘を挟んで約200kmと地理的にも近く、飛行機で約50分、高速船でも約3時間の距離にあります。社会の国際化、成熟化を背景に、福岡～釜山間の交流人口は順調に伸びており、国家の枠を越えた交流が益々盛んになると感じられます。しかし、今後さらなる交流を深めるためには、両市が抱えている様々な課題を協力して解決することが必要です。そのなかで今回は、身近な「交通」および「高齢化」事情について紹介します。

## はじめに

交流人口については順調に伸びてきており、現在福岡～釜山間は、海の便、空の便で結ばれています。

海の便は高速船(ビートル、コピー)が一日5往復、フェリー(ニューカメリア)が一日1往復しています。(ただし高速

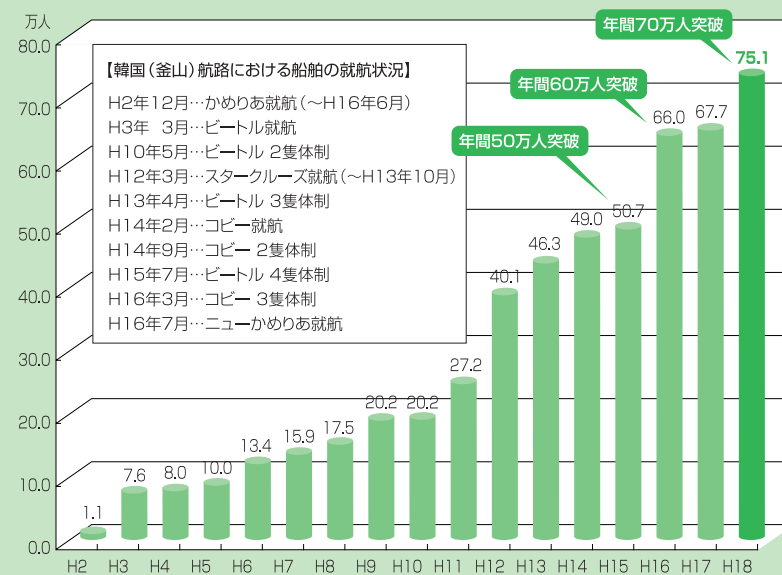
船は、週末などは6往復、繁忙期は7往復。)

一方空の便は、大韓航空が一日1往復、アジアナ航空が週2往復就航しています。

福岡～釜山間の2005(平成17)年の乗降客数は合計79.2万人で、そのうち海路が合計67.7万人(85.5%)、空路が11.5万人(14.5%)と、海路が空路を凌駕している状況にあります。

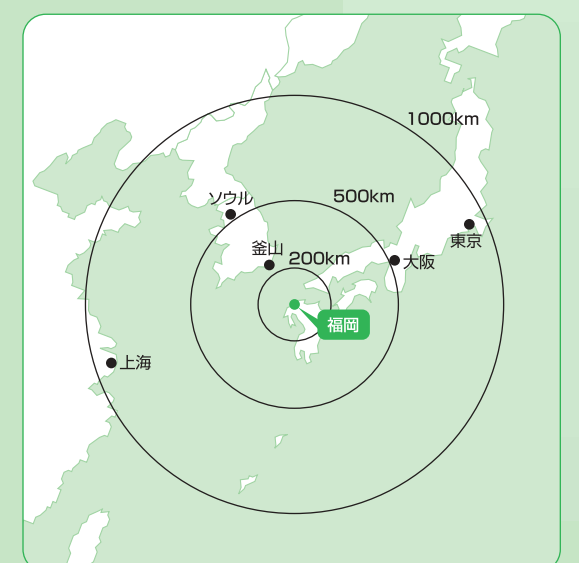
特に海路である博多～釜山間の外国航路船舶乗降人員(高速船およびフェリー)は、1990(平成2)年当時の1.1万人から2006(平成18)年には過去最高の75.1万人にまで伸びてきており、さらなる交流による両市の深い結びつきを期待させます。(小牧)

## ●博多港の外国航路船舶乗降人員数の推移



出典：福岡市港湾局

## ●福岡からアジア主要都市への距離



## 韓国の交通ルール、交通標識

以前と比べだいぶ身近になった釜山ですが、自分でクルマを運転して市内を周遊したという人は、おそらくまだ少ないでしょう。ここでは、日本と似たところもあれば違うところもある韓国の交通ルールや交通標識をご紹介します。

### 1. 交通ルール

日本と韓国の交通ルールを簡単に比べると、表1のようになります。大きく違うのは、自動車の走行レーンが左右逆であること。もちろん自動車の運転席も左右逆になります。また韓国では、街なかでも制限速度が比較的高めに設定されており、例えば釜山広域市中心部のメインストリートでは制限速度は70km/hとなっています。歩行者の安全確保のため、メインストリートを横切る横断歩道は少なく、代わりに地下道(場所によっては地下街と直結)が多く設定され、歩車分離が図られているのも特徴的で、歩行者

●表1：韓国と日本の交通ルールの主な違い

| 韓国  | 日本              |
|---|-----------------|
| ●全体的には基本的に日本に類似。ただしUターン専用レーン、Pターンなど韓国独自のルールも。 | ●全体的には基本的に韓国に類似 |
| ●左ハンドル右側通行                                    | ●右ハンドル左側通行      |
| ●法定速度は日本に比べ高い                                 | ●法定速度は韓国に比べ低い   |
| ●運転は21歳以上                                     | ●運転は18歳以上       |

●表2：韓国独特の交通ルール・慣習例

|           |  |
|-----------|--|
| 信号        | 日本の信号が左から「青、黄、赤」の順で並ぶのに対し、韓国では「赤、黄、青」と逆。また、主に交差点などでは黄と青の間に「←」(左折専用の青信号)が設けられている。                                   |
| 青信号での左折不可 | 交差点などで、青信号時でも左折は不可(日本では、対向車がないことを確認して右折可)。「←」印の青信号が点灯時のみ左折できる。   |
| 赤信号での右折可  | 交差点での赤信号時には右折してよい(アメリカと同様のルール。左折は反対車線を横切るので不可)。ただし横断歩道の歩行者には要注意。   |
| Uターン      | 交通の円滑化のため、主要道路上の大きな交差点の多くで左折禁止となっている。その代わりに、交差点以外の決められた場所でUターンすることができ、Uターンレーン専用「←」印の青信号も設置されている。<br>【右写真】韓国のUターン標識 |
| Pターン      | 反対車線の交通との動線を分離するために設けられているルール。交差点で左折する代わりに、右にぐるりと回りこんで、出たい道路に出る。<br>【右写真】韓国の交差点の左折禁止標識とPターン標識                      |

●写真1：韓国の道路標識



がメインストリートを横断する際にはこの地下道を通ります。

### 2. 交通標識、道案内標識

交通標識は、全体的に日本と似ています(写真1-①、②、③)。①の横断歩道は、言語こそちがうものの意味は図柄

で十分分かります。③の駐車禁止も、日本の標識よりも若干青色の部分の濃度で、図柄は基本的に同じです。

一方で、日本とはデザインがだいぶ異なるものも少なくありません。例えば写真1-④、⑤は日本とは異なる図柄です。また⑥のように、道路に掲げられている標識でも、ハンゲルのみで記載されている場合は、多くの日本人には判読は困難でしょう。

道路標識以外にも、韓国の交通ルールに関しては、以下のような特徴もあります(表2)。通行が左右逆であることから、日本では左から順に「青、黄、赤」と並ぶ信号のライトも、「赤、黄、青」と逆になっています。また矢印信号でのルールの

違い、Uターン、Pターンといった韓国独特のルールなどもあります。隣国でも交通ルールはいろいろと違うものですね。

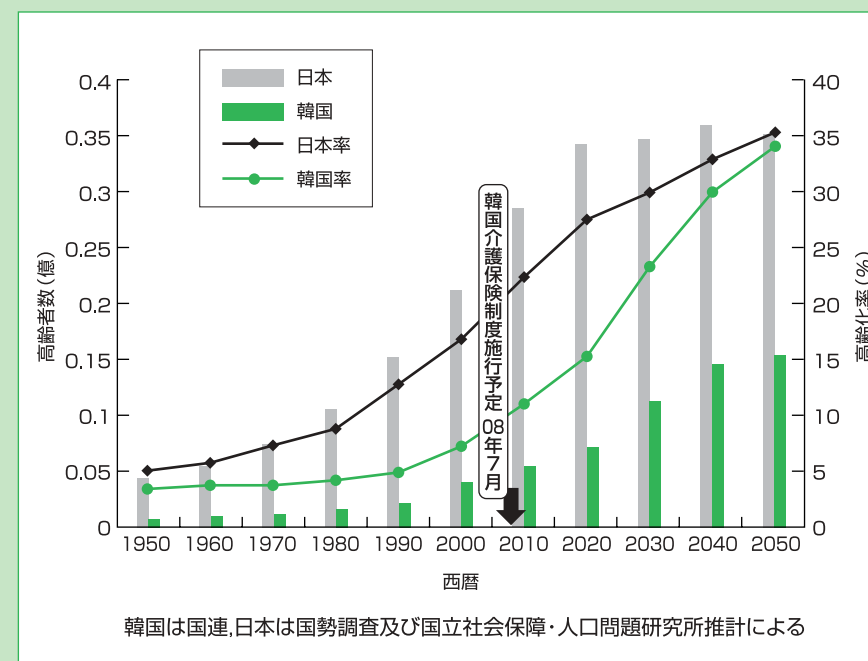
なお、韓国の交通ルールや運転免許については、韓国の運転免許試験管理団の日本語ホームページ(<http://www.dla.go.kr/jp/main.jsp>)に詳細が記されていますので、ご興味のある方はご覧ください。(野口)

## 高齢化の状況

急速な高齢化が進む日本に比べて、韓国の高齢化率は2005(平成17)年時点で9.1%とそれほど高い数値は示していません。ところが、合計特殊出生率が1.08(韓国2005(平成17)年出生死亡統計)と日本の1.25を下回る少子化の進行もあり、今後韓国でも高齢化率は急速に上昇すると予測されています(図1)。こうした中、韓国でも介護保険制度が2008(平成20)年7月から施行される予定となっています。

釜山広域市を訪れても、一般にはまだまだ高齢化の進展についての危機感はなく、データの把握もせいぜい区単位

●図1：日本及び韓国の高齢者数・高齢化率

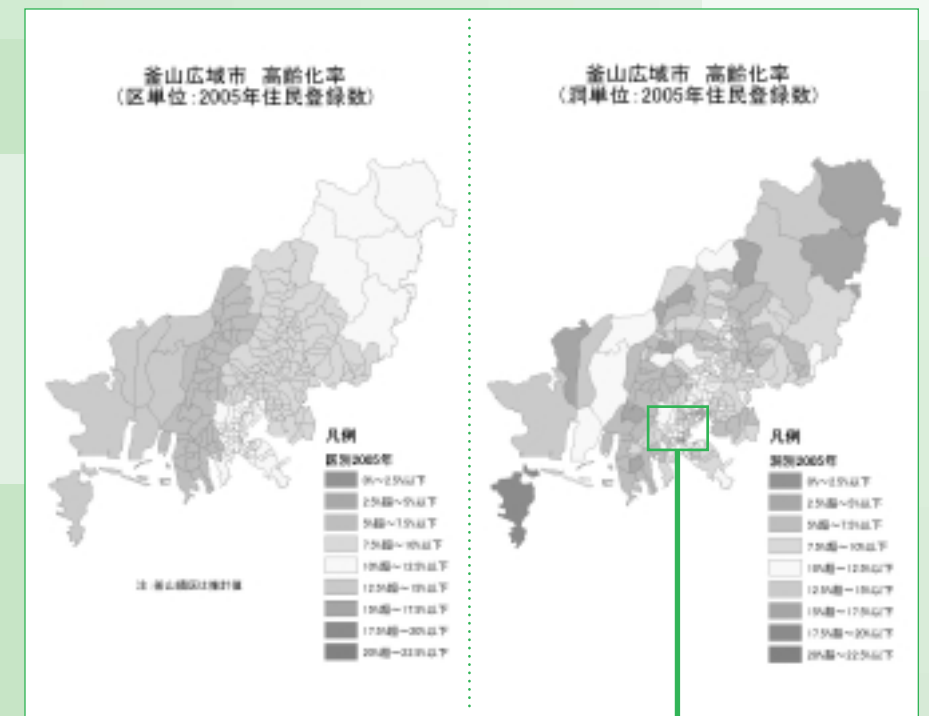


です。したがって「郊外部は高齢化が進んでますよね、でも韓国人は頻りに転居するので、それほど高齢者が集まったエリアってないですよ」といった感じなのですが、日本の町丁目のような「洞(Dong)」単位で見ると、新たな発見があります。実は中心部でもエリアによって相当高齢化が進んでいることが

わかります(図2)。

高齢化が先行する日本における経験は韓国において大変役立つものと思われます。最近では韓国から福岡への高齢者福祉視察も急激に増えています。これからの福岡・釜山の交流もより日常生活の中でのものに進んで行くのではないのでしょうか。(松熊)

●図2：釜山広域市高齢化率(2005(平成17)年) 釜山広域市WEBサイト掲載の住民登録統計を元に筆者作成  
左:区単位 右:洞単位 下:洞単位中心部アップ



### 釜山発展研究院から琴さん来所中

(財)福岡アジア都市研究所は韓国の釜山発展研究院や慶南発展研究院と交流覚書を締結しています。その一環で、釜山発展研究院前任研究委員の琴性根さんが本年2月から1年間来所され、「釜山-福岡圏の北東アジアの核心経済圏への発展」についての研究をされています。(P17写真参照)

# 持続可能な都市構造を考える

～福岡・九州と都市計画の未来～

Fukuoka  
Asian Urban  
Research Center  
SEMINAR

■基調報告

後藤 太一 (財)福岡アジア都市研究所主任研究員

高橋美保子 (九州大学大学院博士課程)

■パネルディスカッション

コーディネーター

出口 敦 (九州大学大学院人間環境学研究院教授)

パネリスト

中井 検裕 (東京工業大学工学部社会工学科教授)

井上 信昭 (福岡大学工学部社会デザイン工学科教授)

澁谷 和久 (国土交通省九州地方整備局総務部長、前・国土交通省都市計画課開発企画調査室長)

後藤 太一 (財)福岡アジア都市研究所主任研究員

2007年1月18日(木) 13:30～16:30

福岡市役所15階講堂

都市は生き物であり、時間と共に変化していく。従って、市民が都市を観測し、評価し、改善していく手法が存在しなければ、一旦作られた都市計画はすぐに時代遅れになってしまい、結果として短命の計画が粗製濫造されかねない。このような問題意識から、当研究所では、カタチとしての都市構造だけでなく、持続可能な都市計画の方法を研究した。その成果報告を踏まえて、これからの都市計画のあり方を議論したのが、本セミナーである。

■基調報告

## 『福岡市の将来の都市構造に関する研究』の概要

■目的と背景

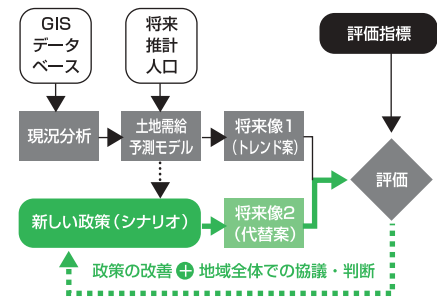
本研究の目的は「持続可能な都市計画の方法」を提案することにあります。

持続可能な都市像だけでなく、その方法論まで掘り下げたのが特徴です。そのために「具体的な将来像」「評価・改善の仕組み」「地域全体での協議」という3つのポイントを掲げました。具体的な将来像では、土地利用と、それと連動する交通の統合性を意識して検討しました。評価・改善の仕組みでは、計画を実行した結果を評価し、やり方を改善していくサイクルを意識しました。また地域全体での協議に、まちづくりの主体である市民が意味のある参画ができるような方法を提案したいと思います。

具体的なやり方は、まず現況分析を行い、現在の政策に基づいて将来像を描きます。これがトレンド案です。これに対して新しい政策をシナリオとして用意し、それを組み込んだ将来像をシミュレーションします。これが代替案です。これらの案の評価・比較を行い、それをもとに政策を見直していく循環の仕組みを構築します。今回は福岡の街を具体例として取り上げて研究しました。

この研究の背景には、個別に対応し

●提案する都市計画の方法



ていく対処療法の行き詰まりがあります。特に将来の人口の減少が最大の問題となっています。福岡市十周辺の18市町から構成される福岡都市圏でも、今後はこれまでのような人口の急成長は見込めません。また少子高齢化が進んでいきます。これらの変化を視野に入れて都市計画をつくっていかねばならないということです。

もう一つの背景に技術革新があります。地理情報システム (GIS) の誕生で都市計画における情報コミュニケーションが飛躍的に改善されました。本研究では、都市計画と建築確認申請のデータをご提供いただき、詳しく分析することができました。

研究概要

●step1 現況分析

- 1.人口動態
  - ・福岡都市圏の人口は全体的に伸び率が鈍化。
  - ・全域的に少子化が進み、都心部では15歳未満人口の割合が低下。
  - ・都市圏すべてで高齢化が進み、特に郊外では高齢化率が高い。
- 2.開発動向
  - ・着工延床面積が減り、開発のペースが落ちてきている。
  - ・開発範囲が狭くなり、市街地拡大のペースが落ちてきている。
  - ・戸建住宅が減少し、共同住宅が増えてきている。
- 3.地域課題
  - ・郊外団地での少子高齢化は福岡市を上回り、衰退が著しい。
  - ・準工業地域に住宅などが建ち、無秩序な開発が始まっている。
  - ・都心周辺や幹線道沿いでマンション開発が増加している。
  - ・ウォーターフロントの再生が課題となっている。

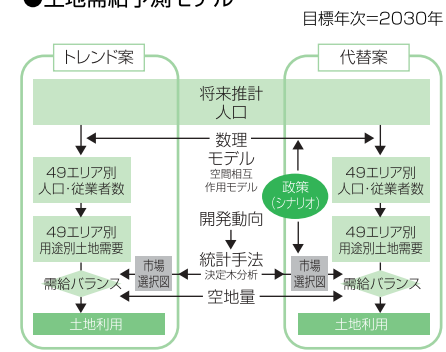
●step2 将来予測

- 将来像1-トレンド案  
現在の都市構造や基本計画に沿って予測された将来像
- ・人口は都心部でやや減少、郊外部で増加が顕著。
  - ・従業者は天神を中心にT字型に増加。
  - ・戸建住宅の需要が共同住宅の需要を上回り、郊外開発が進む。
  - ・業務・商業開発は空港周辺に多い。
- 将来像2-代替案  
新たなシナリオに沿った都市構造や基本計画によって予測された将来像
- ・鉄道軸、臨海部、西部で人口が増加。
  - ・従業者は都心部で著しく増加。
  - ・都心部、臨海部、沿線部で共同住宅開発が進む。
  - ・業務・商業開発は臨海部や西部に多い。
- ※トレンド案では開発が無秩序に広がっていたが、代替案では鉄道駅周辺を中心にコンパクトになっている。

今後の課題

今後の課題としては3点が挙げられます。1点目はデータの整備と活用です。今回は土地・建物のデータが福岡市しか手に入りませんでした。その他の市町に関してもいろいろなところにデータが存在するはず。行政・民間

●土地需給予測モデル



●都市構造概念図 (代替案)



●2030年土地利用予測図 (トレンド案)



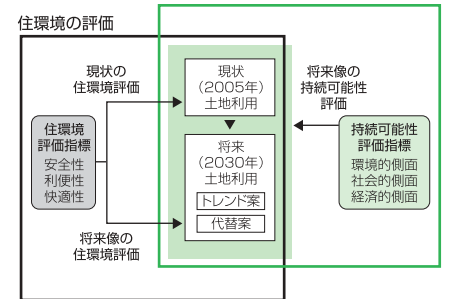
●2030年土地利用予測図 (代替案)



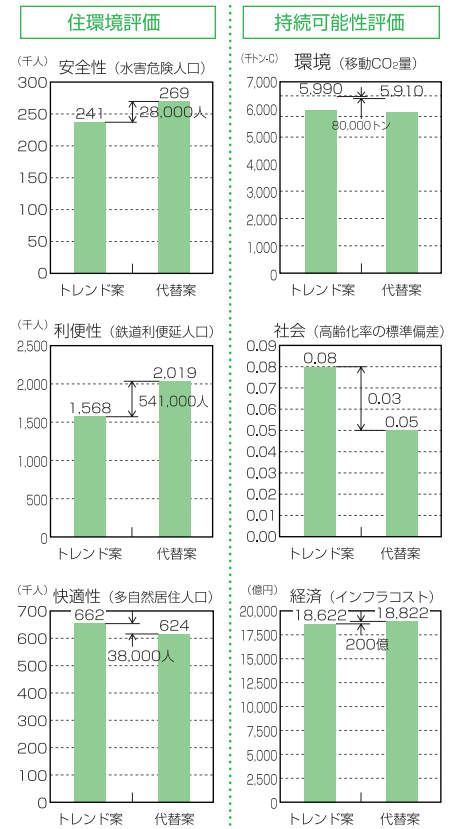
●step3 評価

政策改善のイメージ  
トレンド案、代替案それぞれを一定の指標に当てはめて評価し、その結果を比較して代替案の長所・短所を把握する。それをもとにさらなる改善を重ねることで、より良い案を作成していく。

●評価の構成



●評価結果



## ■ パネルディスカッション



### 集約型都市構造の背景と展望

中井 検裕 (東京工業大学工学部社会工学科教授)

昨年、都市計画法をはじめとした「まちづくり三法」が改正されました。その背景には、これまでの法律に不備があることが指摘されましたが、これはあくまで手段の問題です。その一方に目的の問題、つまり都市構造の問題があり、そちらの方がはるかに重要です。

最近では集約型都市構造をめざすことで議論が進められていますが、ここには市街地が薄く広がっていくことの危機感があります。集約型都市構造への賛成意見には、都市運営のコスト削減、人口減少・高齢化社会では街を広げる必要はない、自動車に依存しない環境適応型の都市構造といったものがあります。これに対する反対意見としては、消費者ニーズを無視してまで集約型にする必要はない、これまでの都市計画で広げてきた街をなぜ放棄するのか、都市間競争の激化で開発・成長を考えるべきというものがあります。

集約型都市構造にはさまざまなメリット・デメリットが言われていますが、いずれも明確な論拠はありません。本日

の研究発表は、その論拠の探究において活用すべきものだと思います。都市計画の政策評価ツール、また代替案を提示する有効なツールになりえると思います。その一方で、予測のモデルそのものに限界があります。都市計画は演繹科学、経験科学なので、どうしてもモデルには人の意思が込められます。その点を明確に区別していくべきだと思います。

### 都市構造と都市交通に関する分析

井上 信昭 (福岡大学工学部社会デザイン工学科教授)

日本の都市構造の特徴は都心部一極集中です。その結果、ドーナツ化現象や郊外に居住地を求めて外縁化する傾向が見られ、職住が遠ざかり、いろいろな交通問題が発生します。これに社会・経済の新しい潮流が加わって、現在は都市構造の変革が求められていると言えます。その方向は駅を中心とするコンパクトな生活圏の整備です。

福岡では0.6%の都心部に約30%の人が働いています。一方で都心に住んでいる人はあまりいません。これまで九州・福岡と規模の似ているオランダ・

アムステルダムとの比較研究を行い、その中で望ましい都市構造と都市交通のあり方を考えてきました。ヨーロッパでは都市の規模に関わらず自動車利用率が低いのですが、その理由は移動距離が短いこと、つまり職住が近接しているという都市構造にあります。交通量が少ないことはCO<sub>2</sub>削減にも貢献できます。

現在は交通計画が土地利用計画に追随する形になっており、交通の整備は常に後追いです。福岡でも空港へのアクセス、海の中道、九州国立博物館など交通整備が後追いとなった事例があります。これからの土地利用計画と交通計画は並列に置かれ、途中で問題が発生したら双方の計画にフィードバックして問題を解決していくべきだと思います。交通の骨格を前提に、それに合わせた土地利用計画を考える時代になっているのではないのでしょうか。

### まちづくり三法改正のねらい

澁谷 和久

(国土交通省九州地方整備局総務部長、前・国土交通省都市計画課開発企画調査室長)

多くの方が誤解していますが、まちづくり三法はシャッター通りを抱える地方都市のために大型店を規制する法律ではありません。まちづくりのイニシアチブを地域に取り戻すことが主眼です。改正前の都市計画法は日本の成長期に制定されたもので、緩いチェックで開発を基本的に容認し、速度をコントロールしようというものでした。ところが今は本格的な人口減少社会になり、地域で街をつくっていく方向に変えていかねばなりません。日本ではまちづくりに長期的な戦略がなく、歯止めない郊外開発がされてきましたが、このイニシアチブを市民に取り戻そうということです。

日本の都市計画は諸外国に比べて非常に緩いものです。今後は都市のあり方を拡散型から集約型へ転換すると

ともに、都市計画の原則と例外を転換する必要があります。これまでは緩い計画で場合により規制できましたが、これからは原則厳しくして市民の話し合いなどで緩和できる制度になっています。

まちづくりには戦略が必要です。まず市政全体の目標があって、それを実現するために土地利用や都市構造の議論があるべきです。ただし、目標は指標にならないイメージだけの言葉でなく、何をいつまでにどう変えるかを具体的に設定する必要があります。そのために指標をわかりやすい形で市民に提示し、市民とのコミュニケーションを図るためのツールが必要です。まずは市民の考える目標についてのマーケティングが必要なので、先ほどの基調報告は、そうしたマーケティングツールとして使うといいのではないかと思います。

### 質疑応答

#### 都市像のシナリオについて

基調報告で代替案として出ていた駅周辺にコミュニティを形成する手法がより良いものか疑問に思います。持続可能な都市像のモデルをどう考えたらいいのでしょうか？

中井 都市像はどうやってシナリオを書くかに関わってくると思います。都市像を考える時、居住と移動のことばかりで産業や福祉が置き去りにされています。空間像は背景にストーリーがないとシナリオとして説得力に欠けるものです。小さい規模の街であれば現実と理念との距離感がそれほどないので都市構造のシナリオは一段階でいいと思いますが、福岡ぐらいの規模になると地域の現状と理念の間をつなぐシナリオがもう一段階いるのではないのでしょうか。

#### 公共交通の課題について

公共交通が都市発展を妨げているという声もあります。公共交通に依存しながら都市の発展は継続していけるの

でしょうか？

井上 今、世界中の都市が自動車交通に過度に依存しない仕組みづくりをめざしています。これは公共交通と自動車交通のどちらかがダメという話ではなく、そのバランスが重要だということです。都市が持続的な発展を続けていくためには、ひとつは公共交通をいかに利用するか、もうひとつは都市構造をどう変えていくかが重要な課題です。自動車、公共交通、自転車など、それぞれの役割分担を明確にしていくことが我々の役割だと思っています。

#### 研究発表の評価について

国交省では基調報告での研究発表をどのように位置づけますか？また、都市計画には財政の裏付けが必要なのではないのでしょうか？

澁谷 まちづくり三法改正の際に、今回の研究と同じような分析を独自に行ったのですが非常に苦労しました。福岡で研究が進んでいるのを知っていたら、もっと早く依頼していたと思います。この分野での研究としてはパイオニア的です。まちづくり三法改正後、実際に各地域の都市計画担当者から事前のシミュレーションをしたいという要望があり、そのモデルを国交省でつくってほしいという声があります。ただしデータがないために難しい点があるので、今後はさまざまなデータを集め、福岡での研究とも連携していきたいと思っています。都市経営コストの分析もこれから取り組むべき課題です。ただし、何のために都市はあるのかという本質にさかのぼって議論しないと、手段の議論に終始してしまう恐れがあると思います。

#### 基調報告に関して

基調報告での研究発表に関して何か追加があればお話しください。

後藤 今回のいただいた質問や要望を今後の研究に反映させていきたいと思っています。基調報告では割愛しましたが、

コストや緑の問題も研究しています。その内容・手法にはまだまだ問題があるので、皆さんの意見を聞きながら、できれば実践で使っていただきつつ、修正していきたいと思っています。

### まとめ

出口 都市計画の役割は、今重要なことだけでなく、将来この都市が発展していけるのか、住みやすさを継続できるのかを考えることです。基調報告の内容には問題点もありますが、評価していい点もあると思います。まず、今までわかりにくかった都市計画を客観的に、身近なものにするツールだということ。また都市計画のアカウンタビリティ(説明責任)を高めるものであるということ。さらに細分化されがちな都市計画を総合的に見せられる道具であるということ。最後に、現在だけでなく、将来にわたっての都市の個性を、指標として認識できる道具であることです。

本研究の理念を数式で表せば「都市計画=芸術×科学」となるだろう。都市計画を判断するのは人間であって、機械ではない。人間の判断は自動化できるものではなく、多様な価値観に基づく議論を重ね合わせた帰結として、導き出されるべきものである。私達は、この理念において、都市計画の自動化を指向した1970年代頃の都市解析ブームとは一線を画する。

本研究の科学的な手法は、人間の芸術的な判断を支援するための道具であって、人間の思考停止や判断力の低下を招くことがあってはならない。むしろ、この道具を使いこなすことで、市民の判断力の向上が図られ、結果として将来の世代により良い都市を残していくことを願ってやまない。

# データで見る福岡市 vol.2

Data of Fukuoka city

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 中村 正則

このコーナーでは、福岡市にまつわる様々な統計データをもとに、福岡市の現在の姿をご紹介します。

今回は「福岡市と映画」ということにスポットを当ててデータを紐解いてみます。福岡のまちを舞台とする映画やドラマの制作を支援する、「福岡フィルムコミッション」の活動もご紹介します。

## 映画館スクリーン数

(社)日本映画制作者連盟の調査データによれば、2006(平成18)年12月末の福岡県のスクリーン数は147。うち29.9%の44スクリーンが福岡市内に設置されています。また、全国の政令指定都市・東京特別区におけるスクリーン数を比較(表1)すると、16都市中の6位。さらに、人口100万人あたりで計算すれば、千葉市、大阪市、静岡市について4位となっています。

劇場としては、1996(平成8)年にチャンネルシティ開業と同時に誕生した、外資系映画会社による『AMCチャンネルシ

●表1：政令指定都市・東京特別区における映画館スクリーン数

| 都市名      | スクリーン数 | 人口100万人あたりスクリーン数(順位) |
|----------|--------|----------------------|
| 1 東京特別区  | 258    | 31.2 (8)             |
| 2 大阪市    | 87     | 34.7 (2)             |
| 3 名古屋市   | 67     | 31.2 (8)             |
| 4 横浜市    | 51     | 14.4 (16)            |
| 5 神戸市    | 48     | 32.0 (6)             |
| 6 福岡市    | 44     | 32.6 (4)             |
| 7 川崎市    | 42     | 32.6 (4)             |
| 8 札幌市    | 41     | 28.0 (12)            |
| 9 千葉市    | 38     | 41.8 (1)             |
| 10 さいたま市 | 36     | 30.8 (10)            |
| 11 京都市   | 34     | 24.5 (15)            |
| 12 広島市   | 34     | 29.8 (11)            |
| 13 北九州市  | 31     | 31.3 (7)             |
| 14 仙台市   | 28     | 28.0 (12)            |
| 15 静岡市   | 24     | 33.7 (3)             |
| 16 堺市    | 23     | 27.7 (14)            |

\* (社)日本映画制作者連盟資料をもとに作成

ティ13(現『ユニテッド・シネマ キャナルシティ13』)が全国的に有名です。これは都心型のシネマコンプレックス(複数スクリーンを持つ大型映画館)の先駆けと言われています。

## アジアフォーカス・福岡映画祭

映画祭と言えば、カンヌ、ヴェネチア、ベルリンが世界三大映画祭として有名です。今日、世界各地で映画界の振興や宣伝、また開催都市のイメージアップをねらい、各種映画祭が開催されています。福岡市でも、1991(平成3)年より毎年9月に『アジアフォーカス・福岡映画祭』を開催しています。これは優れたアジア映画の新作・話題作を上映することで、アジアに対する理解を深めると共に、市民レベルでの文化・国際交流の振興を目的としています。



●表2：アジアフォーカス・福岡映画祭 データ(第1回より3年毎に記載)

| 開催年  | 1991(平成3)年 | 1994(平成6)年 | 1997(平成9)年 | 2000(平成12)年 | 2003(平成15)年 | 2006(平成18)年 |
|------|------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 開催日数 | 8日間        | 10日間       | 10日間       | 10日間        | 12日間        | 10日間        |
| 上映本数 | 23作品       | 36作品       | 27作品       | 50作品        | 60作品        | 47作品        |
| 入場者数 | 10,724人    | 17,024人    | 14,117人    | 18,791人     | 22,720人     | 16,773人     |

\* アジアフォーカス・福岡映画祭実行委員会(福岡市)資料 ※2006(平成18)年は台風13号の影響有り

以上のように、設備としての豊富なスクリーン数、個性ある映画祭の定着の様子などから、映画が身近なまちである福岡の姿が伺われます。

では今度は、映画や映像を通じて福岡のまちの魅力を積極的に発信する組織についてご紹介します。

## 福岡フィルムコミッション

フィルムコミッションとは、映画、TV番組、CM等の撮影を円滑に行うための支援組織で、世界に約300もの団体が組織されています。日本では、2000(平成12)年に大阪で設立されたのを初めに、現在94の組織が活動しています。福岡では、2003(平成15)年2月に福岡市や福岡商工会議所などが中心となって設立されました。

設立の目的は、福岡都市圏の魅力あるロケーションを提供し、映画等を通じて情報発信を行うことで、国内外における福岡都市圏の知名度アップ、及び集

客力の強化に貢献することです。イメージに合う撮影場所を紹介するだけでなく、各種使用許可の手続き支援や、宿泊・食事・輸送等に関する業者の紹介も行っています。

具体的な支援実績を見てみましょう。支援件数は表3の通りです。

●表3：福岡フィルムコミッション支援実績(件数)

|          | 2002(平成14)年度 | 2003(平成15)年度 | 2004(平成16)年度 | 2005(平成17)年度 | 2006(平成18)年度 | 総件数   |
|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------|
| 映画       | 2            | 6            | 5            | 9            | 9            | 31    |
| その他映像    | 26           | 49           | 48           | 43           | 34           | 200   |
| 合計       | 28           | 55           | 53           | 52           | 43           | 231   |
| 参考(依頼件数) | (43)         | (152)        | (146)        | (160)        | (129)        | (630) |

\*福岡フィルムコミッション資料より  
注)平成14年度はH14.9~H15.3の集計、平成18年度はH18.4~H19.1の集計

## 釜山フィルムコミッション

支援実績の参考として、今年(2007(平成19)年)2月2日に姉妹都市となった韓国釜山広域市の例を見てみましょう。

釜山国際映画祭で有名な釜山広域市にも、1999(平成11)年に釜山フィルムコミッションが設立されています。支援実績は表4の通りとなっていますが、福岡フィルムコミッションと比較して、映画支援件数がかかなり多くなっています。福岡はドラマ・CMが先行、釜山は比較的映画が先行していると言えます。

最後に、福岡フィルムコミッションの支援実績から、主な作品の紹介(表5)とロケーションに使用された場所の紹介をいたします。みなさんのお住まいの周辺にも、素敵な景観はありますか？

●表4：釜山フィルムコミッション支援実績(件数)

|       | 2002(平成14)年 | 2003(平成15)年 | 2004(平成16)年 | 2005(平成17)年 | 2006(平成18)年 | 総件数 |
|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 映画    | 19          | 24          | 20          | 30          | 43          | 136 |
| その他映像 | 26          | 18          | 18          | 31          | 40          | 133 |
| 合計    | 45          | 42          | 38          | 61          | 83          | 269 |

\*釜山フィルムコミッション資料より ※実績件数は毎年1月~12月の総数で計算  
☆主な支援映画作品 「トンマッコルへようこそ」、「シルミド」、「プラーザード」、「猟奇的な彼女」、「友へ〜チング〜」、「またまたあがない刑事」



写真1：ベイサイドプレイス博多ふ頭  
2002(平成14)年度：映画「ロッカーズ」  
監督：陣内孝則 主演：中村俊介



写真2：地下鉄藤崎駅  
2005(平成17)年度：ドラマ「輪舞曲-ロンド-」  
出演：竹野内豊、チェ・ジウ

●表5：主な支援作品

|              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 2002(平成14)年度 |                               |
| 映画           | ロッカーズ (写真1)                   |
| ドラマ          | 十津川警部シリーズ 九州特急つばめ殺人事件         |
| 2003(平成15)年度 |                               |
| 海外(韓国)       | COOL(ミュージックビデオ)               |
| 映画           | 偶然にも最悪な少年                     |
| 映画           | ジャンプ                          |
| 映画           | 千年火 ※2005ベルリン映画祭正式出品作品        |
| 映画           | ジューナ・K                        |
| ドラマ          | 考古学者佐久間玲子3 金印とヒスイの涙           |
| 2004(平成16)年度 |                               |
| 海外(韓国)       | g.o.d(ミュージックビデオ)              |
| 映画           | カーテンコール                       |
| 映画           | この胸いっぱいの愛を                    |
| ドラマ          | 十津川警部シリーズ 寝台特急あさかぜ殺人事件        |
| ドラマ          | 松本清張スペシャル 渡された場面              |
| 2005(平成17)年度 |                               |
| 映画           | 輪廻                            |
| 映画           | 出口のない海                        |
| 映画           | デスノート                         |
| ドラマ          | 輪舞曲-ロンド- (写真2)                |
| 2006(平成18)年度 |                               |
| 海外(マレーシア)    | SUMO LAH!(映画)                 |
| 映画           | 22才の別れ Lycoris 葉見ず花見ず物語 (写真3) |
| 映画           | 逃亡そたわけ                        |
| ドラマ          | のだめカンタービレ                     |
| ドラマ          | たった二人の人生ドラマ                   |

\*福岡フィルムコミッション資料



写真3：アクロス福岡  
2006(平成18)年度：映画『22才の別れ Lycoris 葉見ず花見ず物語』  
監督：大林宣彦 主演：寛利夫 2007(平成19)年4月28日(土)より公開  
撮影は他に福岡市長室でも行われました。



### 福岡フィルムコミッション担当者より

福岡市市民局文化部 内藤 晴之

都会の街並みから海や山の豊かな自然まで、コンパクトにまとめた福岡はロケ地の宝庫です。ロケに際してエキストラ出演など協力いただける方を市民会員として募集しています。詳しくはホームページ(www.fukuoka-film.com)をご覧ください。

# 変化を遂げた中国映画100年の歴史 後編

～「福博」と中国映画～

熊本県立大学非常勤講師 西谷 郁

福岡で育った私が物心ついた時、既に中国映画は身近な存在だった。ではどのように福博の市井に中国映画が浸透していったのか。これまで福博の中国映画上映に携わってこられた九州シネマエンタープライズの緒方用光さん、福岡大学・福岡中国映画会の間ふさ子さんのお話をご紹介します、その歴史を振り返る。

## 第2次大戦前後の福博と中国映画

福岡は全国でも珍しく年間を通じて一般の劇場で中国映画が上映され続けている。福岡アジア映画祭やアジアフォーカス・福岡映画祭、福岡市総合図書館シネラなど、アジア映画の中心地として福岡は広く認知されている。福岡は中国大陸に近く、アジアとの交流を積極的に行おうとする人々が「金印」の時代からいた。福博に中国映画が上映され浸透していった歴史を紐解くと、そこにはなくてはならない人々の想いと情熱の足跡があった。

「変化を遂げた中国映画100年の歴史 後編」では、福博とゆかりのある中国映画人や中国とゆかりの深い福博の映画関係者の方々の歴史をご紹介します。

明治時代、近代化の進む日本に中国から多くの留学生が訪れた。後に中国を代表する重要人物も福博の街で留学時代を過ごし、帰国後活躍を遂げている。なかでも郭沫若(現・九州大学卒)、夏衍(現・九州工業大学卒)などが有名である。

郭沫若は、箱崎地区に長く居を構え、福岡近郊の地名、大宰府や博多湾などをモチーフに創作した。夏衍は、門司を訪れた孫文に接し政治活動を開始し、帰国後の1930年代から中国映画・演劇界の中心人物として活躍した。

二人は第二次大戦以後、中日友好協会会長となり福岡の母校を訪れ、その後の中日文化交流の発展に積極的に活躍された。その具体的な活動の一環として中国と日本において両国の映画を上映するという交流活動がある。

戦後1950年前後から、日本の各新聞紙面上で中国映画に関する記事が散見される。なかでも注目されるのは『白毛女』(1950)である。『白毛女』は1950年代半ばから福岡をはじめ日本の各地で自主上映され大きな反響を呼んだ。

中華人民共和国を代表する歴史的な作品『白毛女』には、元満映の日本映画人技術者が中国名を用いて数名参加した。戦後も元満映の中国の映画人とともに東北電影制片廠とともに映画制作をつづけ、新中国映画の基礎を築き上げた方々である。そんな『白毛女』に元満

映出身の方々が参加しているとは知らずに『白毛女』を福岡で観た元満映出身の映画人がいた。九州シネマエンタープライズの緒方用光さんである。

幼少の頃からカメラ好きだった緒方さんは映画カメラマンを志し、1942年満州映画協会養成所第2期生として入所。主に撮影やフィルム技術関係のお仕事をされた。終戦直前に入隊し1948年まで旧ソ連カザフスタンで抑留され、福岡に引揚後、福岡映画サークル協議会を立ち上げた。それから約60年、緒方さんは今日も福博映画界の代表的存在としてご活躍である。

緒方さんが『白毛女』に元満映の同僚が東北電影のスタッフとして参加した事実を知ったのは、緒方さんがかつて「満映」のあった長春を訪れた1990年代になってからである。それまで緒方さんは中国映画に特にこだわることはなかった。

「僕は『満映』にいたけど、別に中国映画だけに愛着を持っていたわけではない。要するに映画は全部好きなのだから」という。いい映画にこだわり続けた緒方さんだからこそ、戦後注目されていなか



写真1：緒方用光さん(右)、間ふさ子さん(左)  
=2007年1月、西谷撮影

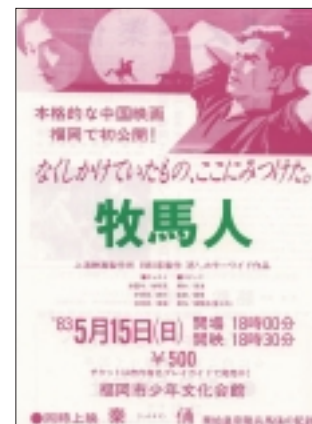


写真2：福岡中国映画会第1回上映会「牧馬人」チラシ  
=資料協力:福岡中国映画会



写真3：進藤一馬元市長(中央椅子)、田壮壮監督(右から2人目)  
於:福岡中国映画祭91歓迎パーティー、1991年11月17日  
=資料協力:福岡中国映画会

った中国映画やアジア映画にいち早く注目し、いい映画であれば上映する、という開放的で刺激的な「福博」映画界が築き上げられたのだ。

## もうすぐ25年の福岡中国映画会

私はいわゆる映画少年だった。チケット売り場に飾られた映画の前売り券やチラシを見てはコレクションしていた。なかでも「福岡中国映画会」というシンプルなデザインの前売り券はひときわ目立っていた。それからアジア映画祭が福岡で始まり、おのずと私はアジア映画のとりこになった。

福岡中国映画会は、1983年に市民を中心に結成され、もうすぐ25年目を迎える。その母体となったのは福岡市現代中国語講座である。第1回上映作品は『牧馬人』(1981)。その後、福岡中国映画祭を2度開催し上映会回数は47回にのぼる。現在はアジアフォーカス・福岡映画祭企画委員として福岡中国映画会の横地剛さんと間ふさ子さんが参加し、その活動を続けている。

1972年、日中国交回復の翌年、中国語講座が開講した。この中国語講座開設を推進したのが、「花守市長」こと進藤一馬元福岡市長である。進藤一馬元市長は明治・大正・昭和と中国との密接な交流関係の促進に尽力された。日中

両国の人びとがお互いの言葉・文化・歴史・風俗習慣などを学ぶ福岡市青少年の船訪中団や、中国語講座、中国映画会の開催を熱心に支援された(横地剛、1993「更上一層楼」『中国語スピーチコンテストと藍天劇団の集い パンフレット』13-16pを参照)。福岡市現代中国語講座と福岡中国映画会は、地方における長年の民間中国語教育活動が認められ、2004年第15回倉石賞を受賞した。

福岡中国映画会が開始した1980年代といえば中国映画「第五世代」が登場した時代である。1991年に福岡中国映画会が主催した福岡中国映画祭では、田壮壮・何平監督や姜文などの大スターが福岡を訪れた。福岡中国映画会は現在、アジアフォーカス福岡映画祭「中国映画フェスティバル」でも活躍を続けている。こうした活動が約30年以上つづいていることは全国的にも大変珍しい貴重な日中交流である。

緒方用光さんは、福岡では中国映画の比率が高く、普通地方の単館の作品は全体の5%ぐらい、福岡は約10%以上、「中国語講座というのがやはり基盤にあって、福岡には中国語分かる人が多いじゃない、それなりに。だから皆さん中国映画の層がきちっと据わっていたんだと思う」と分析された。今日、福博の市井に中国映画、アジア映画が浸透した背景には、市民を主体とした福岡市現

代中国語講座や福岡中国映画会の地道な活動が大きな原動力となっていたのである。

「福博」と中国映画の歴史を振り返り、言葉や文化、歴史を学ぶことをこつこつ続けるという市民を中心とした一人ひとりの熱意が、これからの日中・アジア文化交流の発展において重要な鍵を握るのだと改めて実感した。

緒方さんは「光を見るのが映画、フィルムの灯火光とテレビは違う」と述べられた。映画を劇場で見ることは人をひきつけてやまない何か不思議な魅力が秘められていると思う。中国映画に限らずいい映画を劇場でフィルムの「灯火光」をとおして見続けることが、これまでのそしてこれからの「映画100年の歴史」なのかもしれない。

<主な参考文献>  
岩佐昌輝編著(2005)『中国現代文学と九州』九州大学出版会。  
胡雅・古泉著/横地剛・間ふさ子訳(1999)『満映』/パンドラ。

謝辞:本取材で横地剛先生、田中茂先生、李秀烈先生をはじめ多方面の諸先生方、ならびに福岡市現代中国語講座・福岡中国映画会など諸関係機関の皆様から貴重な資料をお借りしご協力頂いた。心より感謝の意を表したい。



### にしたに かおる

1973年福岡市生まれ。九州大学大学院比較社会文化研究科博士課程単位修得退学。文学修士。

2003年より熊本県立大学非常勤講師、九州大学韓国研究センター「20世紀民衆生活史プロジェクト」研究員。専門分野はアジア映画・現代文化。著書(論文)に「1930年代の中国映画の底流」『現代中国研究』(第10号、2002)、「釜山市民と映画・映像の関係における創発性」『都市政策研究』(第2号、2006)など。

野はアジア映画・現代文化。著書(論文)に「1930年代の中国映画の底流」『現代中国研究』(第10号、2002)、「釜山市民と映画・映像の関係における創発性」『都市政策研究』(第2号、2006)など。

# アジア太平洋都市サミット 会員都市紹介

## ●海外(17都市)

オークランド市(ニュージーランド)、バンコク市(タイ王国)、ブリスベン市(オーストラリア連邦)、釜山広域市(大韓民国)、大連市(中華人民共和国)、広州市(中華人民共和国)、ホーチミン市(ベトナム社会主義共和国)、香港特別行政区政府(中華人民共和国)、ホノルル市(アメリカ合衆国)、イポー市(マレーシア)、ジャカルタ特別市(インドネシア共和国)、クアラルンプール市(マレーシア)、マニラ市(フィリピン共和国)、上海市(中華人民共和国)、シンガポール共和国、ウルムチ市(中華人民共和国)①、ウラジオストク市(ロシア連邦)

## ●国内(9都市)

鹿児島市、北九州市、熊本市、宮崎市、長崎市、那覇市、大分市、佐賀市、福岡市

注:○数字はFU+掲載号数です。

## APCS都市三大インパクト ホーチミン市の巻

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 山下 永子

### 0 パク 顔の ホーチミン・シティ

「ホーチミン・シティについて何か知っていることある？」って聞かれても、「。。。」な人は多いと思う。でも、「ではサイゴンは？」だったら、どうでしょう。小説・映画「愛人(ラ・マン)」、ミュージカル「ミス・サイゴン」、ベトナム戦争「サイゴン陥落」、

などメディアやエンターテインメントの鮮明なビジュアルを思い浮かべる人も多いはず。

「フランス風コロニアルモダンと中国的カオスが融合したエキゾチックな街並みと文化」が、私にとっての旧サイゴン、ホーチミン・シティに漠然と抱いていたイメージだった。

「ドイモイで急激な経済発展」「バイク

クがすごいよ」。そんなこと言われても、「アオザイをまとった黒髪の涼やかな少女が、ローマの休日みたいにバイクで優雅に駆け抜けていく」みたいな情景しか浮かんでこない。しかし、今では、それは永遠の顔のイメージとして封印してしまっている。そう、ホーチミン・シティに行ってしまったから。

遅いペースで始まった。横楯円の集団が牽制しあいながら、つかず離れずの距離を保ちつつ、ベストポジションを選びながら前に前に走っていく。

まさに、ホーチミンのライダー群。スピード的には多分駅伝の方が断然速い。でもライダーも特段イライラしている風ではない、と言うのも、その流れが止まることは滅多に

走るバイクの多さはもちろん、集団化して走る空気の一体感、そして各マシンの微妙な距離感、ライダーたちのあまりにくつろいだスタイル、そして、連続し途切れることのないマフラー音。この3つの衝撃について所感・感想を整理してみた。

### ①駅伝一区の一休感・距離感

今年の都道府県対抗駅伝は男女ともに

### 1 パク 疾走する オートバイ・シティ

人口は約650万人なのに登録バイク数は約300万台、これが「バイクがすごいよ」と言われる所以。夜、空港についてホテルに向かうタクシーから見た光景は、とにかく今でも忘れられない。本当に衝撃的だった。



ウィンドウ・ショッピングを楽しむ夜のレディース隊



空間把握力が成否をわける信号機なき交差点



歩道とバイクちゃん



ヘルメットは郊外のみ着用遵守、しかし都心部でも啓発は進行中



歩道は祭壇



歩道は洗い場



歩道は仕事場(七輪で焼くワッフル)



歩道は喫茶室

ないから。常にスルーと走り続けているので、カッコするのは車の運転手だけという印象を受けた。

### ②ライダー快適運転術

ライダーがあまりイライラしない理由は他にもある。見たところ平均乗車人数2.2人(勝手推計)だけあって、オートバイは格好のデート場、もしくはチャット花咲く喫茶店。ウィンドウ・ショッピングをしたりアイスを舐めたりと、超リラックス走行を楽しんでいる人も多い。

そもそも、オートバイの後ろで横座り、簡易椅子を足元に設置、なんて日本では考えられない作業。もちろん、純粋に移動の手段として活用している人たちもいる。しかし、彼らも、速く走ることより、大きい荷物を運ぶことに注力しているせいか、ゆっくり走ることには抵抗はない模様。なんせ、大きな窓ガラス、パソコン、はたまた街灯まで担いで運搬。

そう、ホーチミンのオートバイは日本におけるローラースケートであり、自転車であり、軽トラだったりするのだ。

### ③そろそろ問題解決の時期

ホーチミン市民にはなくてはならないオートバイだけれども、やはり都市問題化しているのは事実。騒音、排気ガス、駐輪スペースの確保。これらが市民生活はもちろんのこと、「エキゾチック・サイゴン」をイメージして来た観光客の期待を裏切る一因になってしまっているのは如何なものか。

ホーチミン市では現在地下鉄建設計画が進行している。また、7つの地下駐輪場も随時完成予定と言う。「この2つが完成すれば、人がゆっくり歩道を歩ける街になる」という夢を抱く市の幹部たち。

でも悪いけど、今の便利さと快適さに慣れた市民が簡単にオートバイを手放すとは考えられない。「ハード建設には、ソフトキャン

ペーンも必要」というお話をしてきた。福岡市が自転車地下駐輪場の活用を呼びかける努力をしてきた経験を、ホーチミン市にも伝えていけたら良いと思う。

### 2 パク 歩道パラダイスあるいは テラス化した私的空間

勉強不足なので、社会主義国における公道利用意識が、日本のそれとどれだけ違うのかはわからない。しかし、ホーチミン市民を見る限り、自宅や自店前の歩道も私的権利空間と思っているのではないかと推測される。

オートバイの駐輪で、歩道が歩けないなんて本当に序の口。見るからに「かわいい旅行者」である私が歩いてきても、歩道の真ん中でおしゃべり熱中ジモティは、けて隙間を空けてくれない。オートバイ集団ひた走る車道に、子羊のように私は足を踏み入れざるをえないのだ。まあ、これは悪い側面だけれども、テラス化した歩道というのは悪くない。むしろ生活感が溢れ、和める雰囲気をかもしだし、さらには訪問者の親近感を高める要素になっているのではないかしら。

歩道が私的権利空間と把握されているからかもしれないが、歩道はとてもきれいだ。この規模クラスの都市の中では、群を抜いてゴミが落ちていない。だからなのか、カラスがいらない、野犬や野良猫が歩いていない。でも、動物が少ないのは排気ガスのせいという人もいる。ともあれ、街がクリーンなのは良いことだと思う。これが、市民の心かげによるものであれば大変素晴らしいし、また行政の清掃事業が行き渡っているのであれば、それも良いことだと感じ入る。

歩くを楽しめる街の第一条件はクリーンであること。だからこそ、「バイクちゃんどこ

かに行つて」なんですけどね。

### 3 パク 香草攻略大作戦

ベトナム料理は香草なしには語れない。日本でもフォーや生春巻きは、癒し系お洒落アジア雑貨ブームとともに、若い女性の中においてはカフェ飯定番の1つとして既に定着済みなので、いくら中年の殿方でもどのようなものかピンとくる料理となっている(ハズ)。

その春巻きだが、ホーチミンでは揚春巻きの方が主流で、生春巻きは比較的新しい食べ方のようなのだ。見ると、若い女性や欧米の観光客は好んでオーダーしている。ヘルシーさが受けて、そういう面から日本に入ってきたのだなあ、と合点した次第だ。

今度試してみたいと思ったのは、手巻き生春巻き。寄せ鍋よろしくザルいっぱいにも多種多様な香草が載せられてきて、自ら1枚ずつ水をぐぐらせたライスペーパーに巻いて食べる。香草のほか、具材も1品単位でオーダーできるので、自分のお好み春巻きをいくらでも味わえるのがミソだ。

しかし、そのためには大きな課題がある。香草知識が必要なのだ。形状と味を一致させて覚えることは結構難しい。私は、何度食べても苦手のパクチーを見分けることができない。嫌いな香草なのに名前さえ言えないものも沢山存在する。かと言って、オーダーしたものをいちいち匂って噛んでみるなんて、ウサギの真似事のようなことはしたくない。

そこで、これからベトナムを訪れる予定のある方に一首進呈アドバイス。「香草は、知識があれば、憂いなし、味覚抗争、功奏す」。下手だねえ。

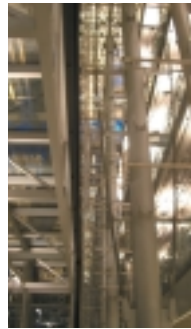


# APCS都市三大インパクト **バンコク市の巻**

(財)福岡アジア都市研究所 交流推進係長  
アジア太平洋都市サミット事務局 **山本 公平**

## どこまで行けばお茶の時間?

30度を超える気温の割に不快感は無い。去年開港したばかりのスワンナプーム国際空港には工事中のスパヤマジックで走り書きのサイン等、未だ新築のにおいが漂う。次々に現れるきらびやかな店、ここはさっき通ったところでは? 堂々巡り? デジャビュか錯覚か。しかし微妙に違う。一体どれだけ歩けば目的地にたどり着くのか。対象構造のラビリンズ。そして初めて目の当たりにする巨大空間。世界最大のターミナルビルを前に踏破の夢は潰えていく。半分程は日本の円借款が充てられたと言う総工費四千数百億円の結実を征服するのは容易ではない。せめて一時でもアジアの不夜城の絢爛に浸ろう。



## 幻想の夜

夜のバンコク・チョンブリ高速道路を飛ばす。ここにも円借款の手は伸びている。「世界ODAを巡る旅」の構想(思いつき)が頭をよぎる。窓外には見たこともない大規模な立体駐車場の重層的に輝く蛍光灯の明かりや、超近代的なビル、あり得ないほどの大きさに訴えかける韓国企業の看板などが次々と通り過ぎる。映画「惑

星ソラリス」で、タルコフスキーは日本のハイウェイを撮影したが、今だったらタイを選ぶだろうか。30分ほどで宿に到着。リゾートホテルのような外観に広々とした室内、そしてカーテンを開くと...ここは一体? 目前に半裸で洗濯をする女性が。肌の色が目に焼け付く。こんなところで窃視の誘惑にかられようとは。眼下には無秩序に増改築された猥雑な集合住宅が広がり、ベランダで繰り広げられる日常生活に思わず目を奪われた。しかし、こんなに開けっぴろげではこちらが気後れする。以後窓に近寄れなくなったのは言うまでもない。

## バンコク都庁

タイは、臨機応変な外交政策と地政学的な幸運から、アジアでは日本以外で唯一植民地化を免れた。ASEANでは先頭グループであるこの国の首都が、クルンテープ~(以下122字省略)、通称バンコクだ。同時多発爆弾テロの直後で戦戦恐恐として乗り込んだが、何の混乱・緊張も感じることはなかった。さすがはマイ・ベン・ライ(タイ語で「気にしない」「大丈夫」の意)の国。今回の訪問は、都庁の方々の手際よい対応で準備段階からスムーズに進んだ。2人の副知事級の方や戦略企画局長など沢山の責任者と面会し、丸1日に渡って有意義な情報交換が出来た。同日午前中の我々の会談の様子が午後には事務所に張り出されるなどの演出は心憎い

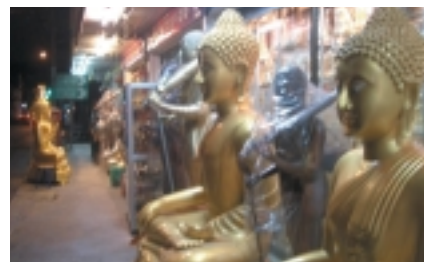


だけでなく、インタビューの内容から行政事務全般が非常に洗練されたシステムで迅速・合理的に進められている印象を持った。

## 小公務員バンコク 3 **パク!**(夜編)

### 1 **パク** 「上座部仏教の国」

きんきらきんの仏像商店街では見渡す限りの無限お釈迦様天国が続く。そして一際目を引いた(ギョツとした)のがこちら。タイの高僧が勢揃い。そんなじっと見つめられても仏門には入れません。日本の某〇×堂製ではあるまいかと思われるほど緻密なモデリング。そしてお参りセット? 店先には種類や量を競うように様々なバリエーションが並べられる。この通りには他にも山吹色の袈裟だけが山積みされた反物屋など珍しい店が軒を連ねる。



### 2 **パク** 「現代の闇」

ネットカフェを探していたら発見。所謂オンラインゲームの店。驚くのが年齢層。「絶対小学生やろっおまえら」と言いたくなる子供達もいる。ポスターには日本のアニメキャラクターばいもの(しかし韓国語表記多し)が描かれていた。小公務員の性でさすがにここで仕事をする勇気も出ず入店出来ず。



### 3 **パク** 「歩行者を襲う不条理」

いくらなんでもこんな歩道は無いでしょう。幅30cm位。暗闇で、車がガンガン通る中轢かれそうになりながら必死で20枚位とった中のベストショット。本当に怖かった。前に歩くおばさんはご覧の通り片足車道に落ちちゃってる。お次は横断歩道。人が渡っているが、その先の歩道との段差は1メートル以上。あり得ない。



## 小公務員バンコク 3 **パク!**(昼編)

### 1 **パク** 「大都市経済の不思議」

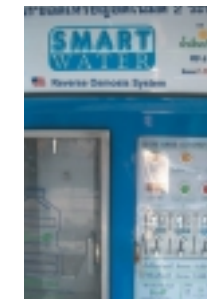
電光掲示によるただの道路交通案内

だが、左には昼間でもかなりはっきり見えるLED?の商業看板がセットになっている。ちょうど画面が切り替わっているところで次は日本企業が表示された。役所に広告代が入るのだろうか。街中で見かけるプミポン・アダウンヤデート国王の巨大パナールはもちろんだが、デザイン的にも洗練された大型商業広告が目を見つめるのはさすが大都市。しかしホテル裏の住宅街あたりには金は流れてこないのだろうか。



### 2 **パク** 「いつもペットと共に」

これも何度かみかけた水だけの販売機。ペットボトルは持参しよう。よく見るとどこぞの旗がゆれているが、観光客向けなのか、それが住民にも定着しているのかは不明。そしてピンクの緑茶発見! ザクロとベリー入りでもちろんピンク色の飲料。どこが緑茶やねん!



### 3 **パク** 「エ〇ビデオ攻撃の良」

私の前には山吹色の袈裟を掛けた2人の僧、一方は白人でもう一方は黒人少年がタイスマイルで談笑中。日本人と見たとたん近寄って来るマレー系風の人は「スゴイエ〇ビデオアルヨ」と言って袖を引っ張る。ここがタイのアキバ、

パンティッププラザだ。とにかくでかい。数え切れない程のパソコンショップやパーツ屋がひしめき合う。オタク(私)の天国だ。微妙に大きいSONYのロゴ付きウォークマンや、異常に安い偽iPodなども並ぶ。タイの寺院では電腦化が進んでいるのか袈裟姿の僧も目立つ。



## おまけ

今回偶然、福岡在住の世界で活躍するタイ人アーティストNavin Rawanchaikulに会う。彼はタイのデザイナーズ・ブランド、ジム・トンプソンの仕事もしており、生誕100年を記念した展覧会を開催しているとのこと。会場のジム・トンプソンの家を訪れた。入場料100バーツで日本語ガイド付きの歴史トリップが出来る。平面、立体、ビデオ、音声などあらゆるメディアを駆使したNavinの展示は残念ながら3月22日までだが、歴史と文化が凝縮したオアシス空間は一見の価値有り。



展覧会「LOST IN THE CITY」入口。NavinデザインのバックやTシャツも販売。100yearsの旗がなびく。



# 「民族村」と「農民工」

(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 唐寅



チベット族の従業員



チベット族村

「常春」の昆明市は人口240万人を擁する雲南省の省都であり、1999年には中国で初めてのA1級万国博覧会となる「中国'99昆明世界園芸博覧会」の主催都市でもある。その温暖な気候や豊かな民族色に魅せられて、毎年国内外から数千万人の観光客が集まっている。昆明を代表する観光スポットの一つは滇池湖畔にある「雲南民族村」(1992年設立)である。深圳の「中国民俗村」(1991年)、北京の「中華民族園」(1994年)と並ぶ少数民族の文化を紹介するテーマパークとして名高い。

民族村は8,000ヘクタールもある広大な敷地のなかに、各少数民族の伝統住居と生活を展示する「村」が元の集住地域の位置にあわせて設けられている。まだ14しかないが、2008年までに省内主要26民族の「村」を次々と完成させる予定である。各「村」にはその民族の住まいや風習などが再現され、園内各地で少数民族の伝統儀式や歌舞のパフォーマンスもある。毎年の来園者130万人のうち、外国人はおよそ15%で、中国のほかの省から来た観光客は80%である。入場料が高いせいか(80元)、昆明市民の姿は疎らである。

民族村で働く400人ぐらいの従業員の内、少数民族青年は280人ほどいる。

彼らは雲南省各地で行われた選考試験を受け、容姿や表現力、そして学力などの要件を満たした合格者の中から採用されたのである。少数民族の就職志願者は原則として農村戸籍に限定され、採用された後も都市戸籍を与えることはないから、まさしく農民の身分を持ちながら都市に働きに来ている「農民工」である。

彼らは民族文化と観光業務に関する研修を3か月間受けてから、所定の試験に合格した後に民族村の管理委員会と正式に労働契約を結ぶ。当初は1年間の契約からスタートし、勤務成績に基づいて、次の更新時に3年または5年契約に延長することもある。多くの人はだいたい3年で終わるが、5年以上続く人もいる。初任給は800元~1,000元、年数が長くなるにつれ、2,000元以上をもらうこともある。節約すれば1か月の生活費は200元で足りるので、大半は故郷の実家に送金をしている。

彼らの仕事は、主に故郷の民族文化を紹介、宣伝することであり、歌舞、工芸、日常生活の展示を通して、自民族への認識や理解を深めることが目的である。お客のさまざまな質問に答え、一緒に写真を撮をとることも多い。

ほかの3K労働現場で働く農民工に比べ、彼らは民族村の中で差別を受け



イー族村の広場

ることはほとんどないという。ここでは、自分は少数民族であることを隠すこともなく、むしろ堂々と主張することが仕事上要求されている。そのため、都市や漢族へのコンプレックスは少なく、周囲とのトラブルもあまり起こらない。

農村から出てきた彼らは、民族村で自民族文化に対する誇りを持ち続けながら、一方では他民族の文化や現代社会の価値観を勉強している。このような学習の過程、文化の緩衝過程を経験することは大変効果的で、民族村を離れた後、ほとんどの少数民族青年が漢族中心の都市環境にスムーズに適応することができているという。

# INFORMATION

[インフォメーション]

## 若手研究者研究活動助成

アジア地域の「都市の文化理解」または「都市発展」に関する研究に取り組んでいる若手研究者(40歳未満)の海外現地調査活動を資金的に支援することにより、その育成に寄与するとともに、国内外の研究ネットワークの構築を目的とするものです。2007(平成19)年度の募集は4月に開始予定です。

### 【助成対象活動】

アジア地域の現地で研究に必要な関係資料の収集、訪問インタビュー、情報交換、観察等の調査研究活動。

### 【対象分野】

福岡アジア都市研究所の基本方針にふさわしく、アジア地域における都市の文化理解の促進または都市の発展に資すると認められるもの。

### 【助成金の使途範囲】

・現地滞在費 ・現地調査活動費 ・国際航空運賃

### 【応募資格者】

- アジア地域の国籍等を有し、2008(平成20)年3月31日現在で満40才未満
- 1. 福岡、佐賀、長崎、大分県内(以下域内と表示)の大学又は短期大学に所属する助手、常勤の講師又は助教授
- 2. 域内の大学の大学院博士課程(修士課程に相当する課程は除く)に在学する大学院生

## 賛助会員制度

年会費(法人一口:10,000円、個人一口:5,000円)をお支払いいただくと、さまざまな特典が受けられる賛助会員制度があります。詳しくは、(財)福岡アジア都市研究所までお尋ねください。

TEL:092-733-5686 FAX:092-733-5680 E-mail: info@urc.or.jp

- 特典 —— 1. 研究所主催のセミナー等の開催情報をお知らせします。
- 2. 都市情報誌を毎月1部無料でお届けします。
- 3. 研究紀要を毎月1部無料でお届けします。
- 4. 中国動向・韓国動向を毎月1部無料でお届けします。

## 都市政策資料室

都市政策資料室では、アジア地域を含む都市政策関係図書、各種調査・研究の成果報告書、行政資料などを収集・公開しております。また、アジア開発銀行の寄託図書室の指定を受けております。どなたでもご利用いただけます。

皆様のご利用をお待ちしております。

開室:月~金10:00~17:00

(土曜日・日曜日・祝日・年末年始・毎月最終業務日・資料整理期間(不定期))

資料検索:研究所のホームページから資料室の図書・資料が検索できます。

## バックナンバーのお知らせ

第1号(2006年12月25日発行) 特集 博多駅—現在・過去・未来—

- ・なぜ今、博多駅か
  - ・グラフィア 過去と現在の博多駅地区の比較
  - ・博多駅地区の歩みと課題
  - ・生まれ変わる博多駅 九州旅客鉄道株式会社博多駅開発本部
  - ・新・福岡都心構想
  - ・博多駅地区における交通結節点とまちづくりのあり方
  - ・駅前でまちづくり!
  - ・九州新幹線をいかに使うべきか 九州大学大学院工学研究院 教授 角 知憲
  - ・まとめ 第3世代の博多駅地区のまちへ (財)福岡アジア都市研究所 理事長 梶木 武
- ※当研究所のホームページからご覧いただけます。



## 編集後記

特集では、まち歩きを取りあげました。自分のまちをゆっくり歩いて観察したり、まち歩きイベントに参加したり…。気軽に出来て、楽しいまち歩きをぜひお試しください。取材では、色々な方のお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。また、高齢者が自分のまちを診断する新たな取り組み、自分のまちを歩いたエッセイや健康づくりについても紹介しています。さらに、研究員のレポート、データ、都市・文化についてのアジアに関する記事や都市セミナーの採録も掲載しています。来年度よりIU+は6月と12月の年2回発行になります。どうぞ、引き続きご愛読ください。(瀧山)

## 訂正とお詫び

都市情報誌IU+第1号に間違いがありました。P3本文3行目「2,669,983km<sup>2</sup>」は正しくは「2,669,983m<sup>2</sup>」です。訂正と共にお詫びいたします。

## 次号予告

第3号 2007年6月発行予定  
特集「地域の商店街」(仮題)

ライフスタイルの変化、店主の高齢化、郊外での大型商業施設出店、都市機能の拡散などにより、都市の賑わい空間であり、コミュニケーションの核として発展してきた商店街が、今苦境に立たされています。第3号では、地域の商店街の実態と、様々な活性化策を紹介します。

都市情報誌IU+(エフ・ユー プラス)第2号  
2007年3月30日発行

- 発行所  
財団法人福岡アジア都市研究所  
〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1  
福岡市役所北別館6F  
TEL: 092-733-5686  
FAX: 092-733-5680  
E-mail: info@urc.or.jp  
URL: http://www.urc.or.jp
- 編集責任者: 陶山 靖
- 編集スタッフ: 松熊 功 瀧山直子
- デザイン・印刷: 秀巧社印刷株式会社